



平成24年 3月26日

## 「がんプロフェッショナル養成プラン」の最終評価結果

「がんプロフェッショナル養成プラン」について最終評価を実施しましたので、その結果をお知らせいたします。

### 1. 事業の概要

がんは、わが国の死亡率第1位の疾患ですが、がんを横断的・集学的に診療できる専門家が全国的に少なく、その養成が急務とされています。また、近年の高度化したがん医療の推進は、がん医療に習熟した医師、薬剤師、看護師、その他の医療技術者等の各種専門家が参画し、チームとして機能することが何より重要です。

そのため、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがん医療に携わる医療スタッフなど、がんに特化した医療人材の養成を行うため、大学病院等との有機的かつ円滑な連携のもとに行われる大学院のプログラムを支援します。

＜事業計画期間＞ 平成19年度～平成23年度（5年間）

＜事業選定件数＞ 18件

### 2. 最終評価の実施方法について

最終評価は

- ① 事業の実施状況や成果等を検証し、本事業の目的が達成されたか評価を行うこと。
- ② 評価結果を各大学にフィードバックすることにより今後の事業の更なる発展に役立てること。
- ③ 本事業の成果等をわかりやすく社会に公表すること。

を目的として実施しました。

全18プログラムから、自己評価書の提出を受け、「がんプロフェッショナル養成推進委員会」において、書面評価及び合議審査を実施し、別添のとおり結果を取りまとめました。

＜担当＞ 高等教育局医学教育課

がん医療人材育成専門官：岩瀬 鎮 男

医学教育係長：菊池 博之

電話：03-5253-4111 (3306)

## がんプロフェッショナル養成推進委員会委員名簿

あまの 天野	しんすけ 慎介	特定非営利活動法人グループ・ネクサス理事長
いまい 今井	こうぞう 浩三	東京大学医科学研究所附属病院長
こまつ 小松	ひろこ 浩子	慶應義塾大学看護医療学部教授
すずき 鈴木	ひろし 洋史	東京大学医学部附属病院教授・薬剤部長
たまき 玉木	ながら 長良	北海道大学大学院医学研究科長
たむら 田村	かずお 和夫	福岡大学医学部教授
つねとう 恒藤	さとり 暁	大阪大学大学院医学系研究科寄附講座教授
なかがわ 中川	けいいち 恵一	東京大学医学部附属病院准教授
にしやま 西山	まさひこ 正彦	埼玉医科大学先端医療開発センター長・教授
ひの 樋野	おきお 興夫	順天堂大学医学部教授
ほさか 保坂	しげり シゲリ	日本医師会常任理事
ほんだ 本田	まゆみ 麻由美	読売新聞東京本社編集局社会保障部記者

(五十音順 敬称略 計12名)

平成24年3月26日

## 「がんプロフェッショナル養成推進委員会」最終評価所見

## 1. 成果や効果

最終評価の実施にあたって、各大学から、多くの成果や特色ある取組が報告されましたが、何よりも特筆すべき点は、日本のがん医療で不十分とされている放射線療法、化学療法、緩和医療等に関する専門資格取得に特化した大学院教育コースが全国的に開設され、日本のがん専門医療人の教育システムが大きく変革したことです。これにより、がんの教育・研究・診療機能の向上に大きく貢献することが期待されます。

具体的な取組の事例については、別添3をご覧ください。本事業で別添3のような多くの教育改革がなされたことは、参加した各大学のご努力及びご支援いただいた関係者の皆様のおかげであり、本委員会としても高く評価しております。

## 2. 今後の課題

一方で、

- ① 放射線療法、化学療法、緩和医療に関する人材養成は進展したが、小児がん、がんの在宅療法、精神腫瘍等に関する人材養成はほとんど行われていない。さらに、近年は手術療法を担う外科医の人員不足が危惧されている。
- ② 日本のがん教育・研究・診療体制の基盤を形成するためには、放射線療法、化学療法、緩和医療に特化した臓器横断的な講座の設置数はいまだ不十分。

等といった課題もあり、今後、取り組んでいく必要があると考えます。

## 3. 推進委員会からの要望

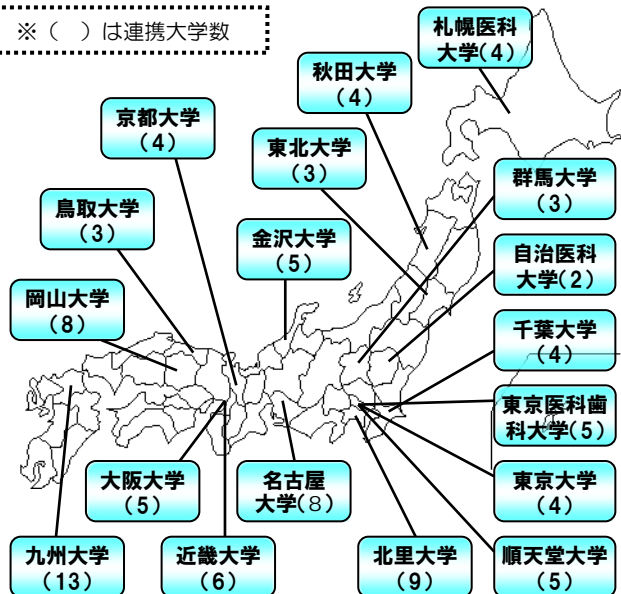
また、本事業をさらに発展させるため、各大学には以下のことを要望いたします。

- ① 補助事業は平成23年度で終了するが、各大学においては、引き続き、がんの専門医療人の養成に取り組み、がんの患者及び国民の皆様に対し、その成果を還元できるよう努めること。
- ② 社会への情報発信はいまだ不十分な大学も見受けられることから、各大学の取組状況や成果、効果等を可能な限り目に見えるような形に可視化した上で、成果等が実感できるよう分かりやすく社会に発信すること。

がんの放射線療法、化学療法、緩和医療等に携わる専門の医師、看護師、薬剤師等を養成することにより、全国で質の高いがん医療を提供することができます。

## ①がん医療の均てん化

※ ( ) は連携大学数



がん患者が、その居住する地域にかかわらず等しく適切ながん医療を受けられるようにすること（がん医療の均てん化）は、がん対策の一つの柱です。

本事業では、がんの専門医療人養成のための拠点を全国に18拠点設け、95大学が参加し、全都道府県でがん医療の均てん化に取り組みました。

## ②がん専門医療人養成に特化した大学院教育コースの開設

○コースの例（放射線腫瘍専門医養成コース）

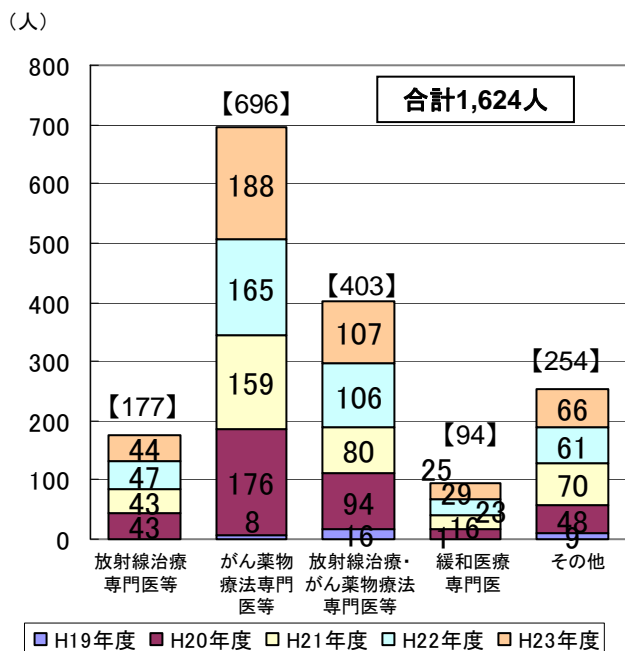
1年目	2年目	3年目	4年目
共通特論（臨床病態生物学、臨床腫瘍学総論、臨床腫瘍学各論 等）		博士論文作成	
臨床腫瘍学(研修)		放射線腫瘍学(研修)	
放射線診断学・腫瘍学(基礎的研修)		・50症例以上の診療実績表を提出	
日本放射線腫瘍学会等への参加		日本放射線腫瘍学会での学会発表	
学術講演会、症例検討会、公開セミナー等への参加			

博士(医学)の学位取得  
放射線治療専門医試験  
日本医学放射線学会

日本のがん医療で特に不十分とされている放射線療法、化学療法、緩和医療等にたずさわるがん専門医療人の養成に特化した体系的な大学院教育コースを全国的に開設しました。(医師：143J-入、その他：122J-入)

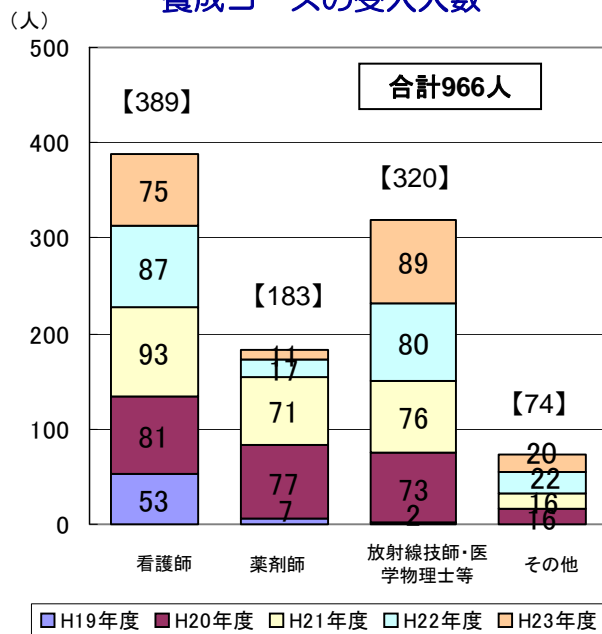
これらのコースは、関係学会が認定する専門医等の資格取得と連携しており、新たな大学院教育の一つのモデルとなりました。

## ③がん専門医師養成コースの受入人数



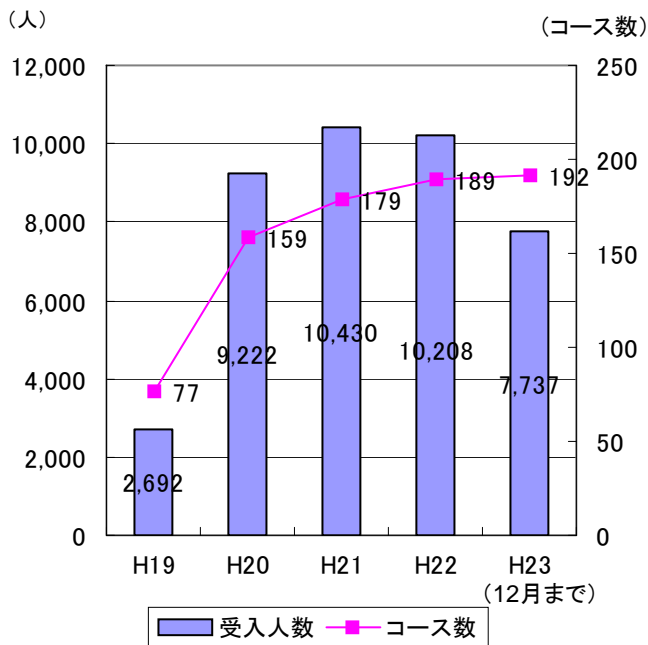
5年間で1千6百名以上の大学院生を受け入れました。本コースの修了生は、その後、放射線治療専門医、がん薬物療法専門医等の資格を取得することが見込まれます。がんの専門医が増加することにより、レベルの高いがん医療を提供できます。

## ④がん専門医療スタッフ（医師以外）養成コースの受入人数



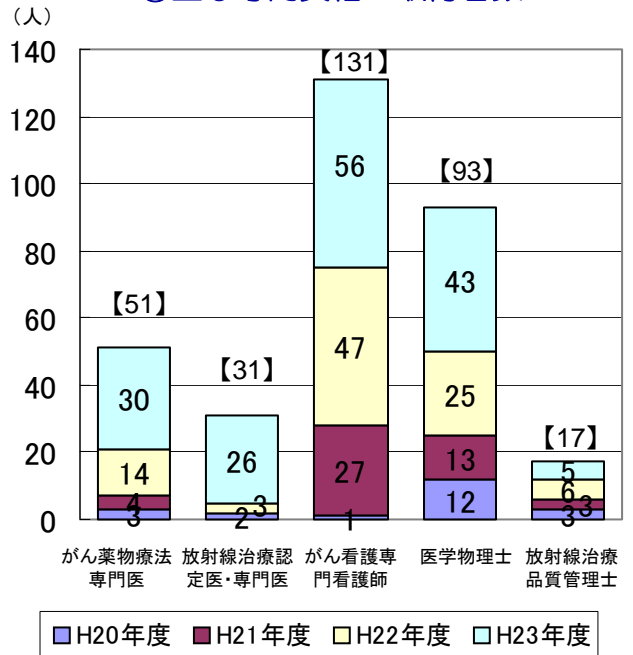
5年間で約1千名の大学院生を受け入れました。本コースの修了生は、その後、がん看護専門看護師、がん専門薬剤師、医学物理士等の専門資格を取得することが見込まれます。そして、がん専門医師と協力して、レベルの高いがん医療を提供します。

### ⑤インテンシブコース（大学院の科目履修等による短期研修コース）の受入人数



5年間で約4万人以上が受講しました。受講生（地域のがん医療人等）は、大学が有する最先端の知識や技術等を短期間で効率よく修得しています。インテンシブコースの開設により、地域のがん医療の質の向上や地域のがん医療人の生涯学習に多大に貢献しています。

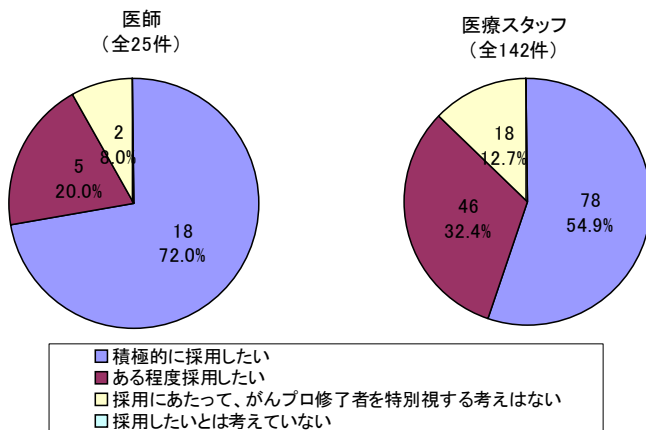
### ⑥主な専門資格の取得者数



専門医師養成コースの修了には通常4年かかるため、専門医の資格取得者数はまだ少ないですが、今後大幅に増加する見込みです。また、がん看護専門看護師や医学物理士の資格取得者数は毎年度増加しています。これにより、がんの専門医療人が各地域に増加し始めています。

### ⑦がんプロコース修了生の進路

がんプロ修了生を採用した医療機関へのアンケート調査  
 <Q:今後もがんプロ修了生の採用を希望するか>  
 ※全国がんプロ協議会調査



がんプロコースの平成22年度修了生の進路は、大学・大学病院（33%）、その他の医療機関（50%）、民間・行政等（9%）です。これらのうち、43%の修了生はがん診療連携拠点病院で活躍しています。また、がんプロ修了生を採用した医療機関に対し、今後もがんプロ修了生の採用を希望するかアンケート調査を実施したところ、約9割の医療機関が「今後も採用したい」と回答しています。

### ⑧高度な医療技術の修得



近畿大学  
 （三次元放射線治療計画実習）

岡山大学  
 （医学物理士コース）



千葉大学  
 （内視鏡手術研修）

千葉大学  
 （抗がん剤静脈内投与実習）

がんの医療技術や医療機器が高度化するなか、医師等が安全に医療行為を行うためには、必要な技術を身に付けておく必要があります。そのため、学生は、附属病院の設備や本事業で整備した精密な人体模型やコンピューター等の教育用シミュレーター等を使って、繰り返しトレーニングを行うことにより、高度な技術を身に付けています。

### ⑨ キャンサーボードの推進



京都大学（キャンサーボード）

本事業の実施以降、各大学で、**キャンサーボード**（医師その他の医療スタッフによるがん患者の症例検討会）の導入が促進されました。

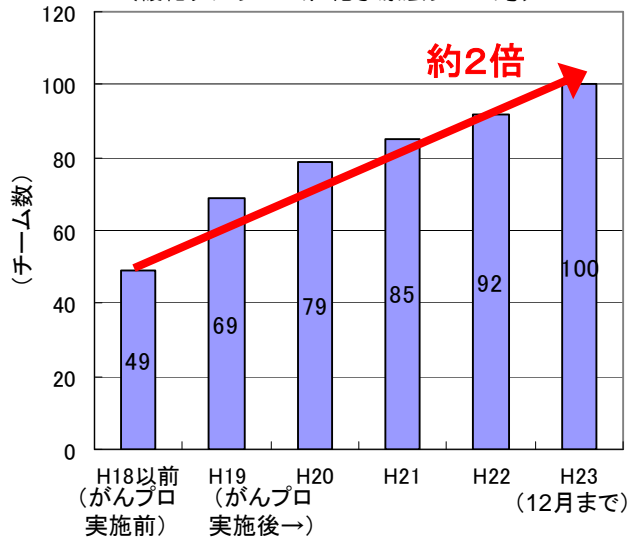
（平成18年度11大学→平成23年度58大学）

キャンサーボードは、従来の内科・外科等の診療科縦割りの垣根を取り払い、様々な分野の専門家が一同に集まって根拠に基いた有効性の高い治療法を決定し、患者の意志を尊重したうえで実践するための重要な検討会です。

がんプロコースの学生もキャンサーボードに参加し、実践的なトレーニングを行っています。

### ⑩ チーム医療の推進

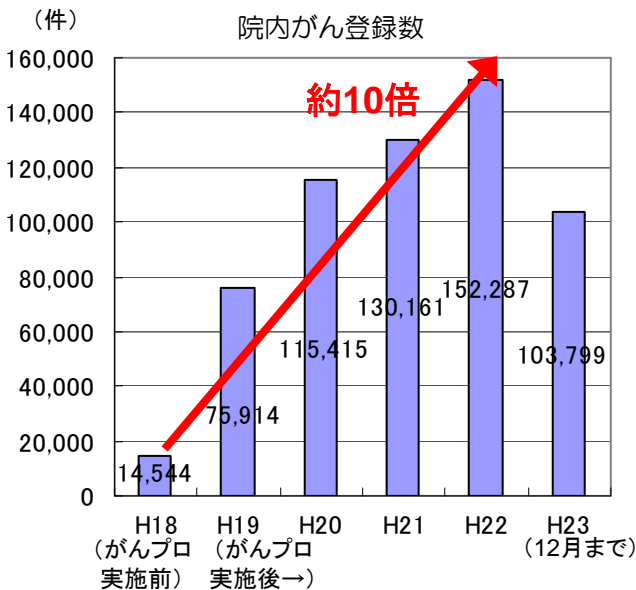
がんに関する医療チーム数  
（緩和ケアチーム、化学療法チーム等）



近年、患者とその家族に対し質の高い医療を提供し、きめ細やかな支援を行うため、医師、看護師、薬剤師、その他の医療人が協力して医療にあたる「**チーム医療**」が強く求められています。

本事業に参加する大学附属病院では、がんプロ実施前の平成18年度と比較して平成23年度は**医療チーム数が約2倍に増加**しています。がんプロコースの学生もチーム医療に参加し、実践的なトレーニングを行っています。

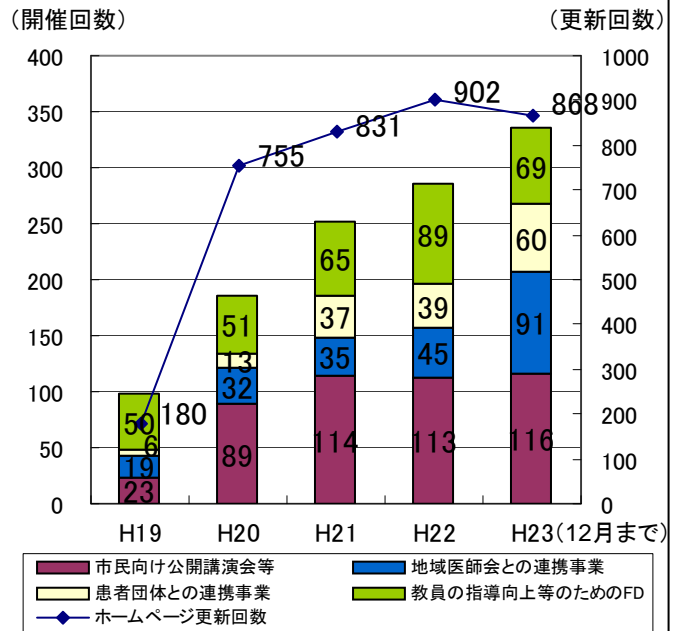
### ⑪ 院内がん登録の推進



病院内のすべてのがん患者の診療情報をデータベースに登録・分析し、その病院の特徴や問題点、治療成績等を明らかにすることにより、適切な診療方法の選択等に活用することができます。

本事業に参加する大学附属病院では、がんプロ実施前の平成18年度と比較して平成22年度は**院内がん登録数が約10倍に増加**しています。登録されたデータは、がんプロコースの教育・研究・診療にも活用されます。

### ⑫ 社会への積極的な情報発信



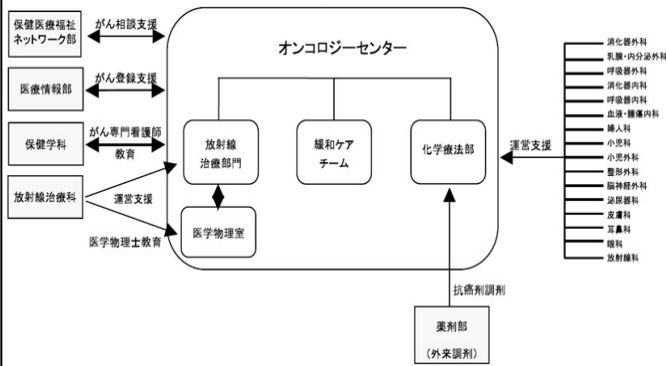
各大学では、市民公開講座の開催や、ホームページの開設などにより、がん医療に関する社会への情報発信を積極的に行っています。

例えば、金沢大学では、がんについて専門医が部位別にわかりやすく解説するコーナーをホームページに掲載したところ、最大で1日1万件もの閲覧がありました。

## ◇その他の取組の例

### ⑬臓器横断的な組織の設置

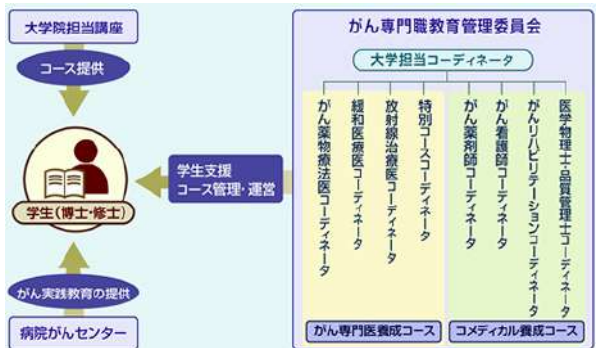
大阪大学の例：H20.4オンコロジーセンター設置



本事業の波及効果として、がんに関する臓器横断的な講座（臨床腫瘍学講座、放射線治療学講座等）の設置や附属病院における院内がんセンター、化学療法室、緩和ケア管理室等の設置が推進され、がんの教育・研究・診療体制の基盤強化が図られました。

### ⑭コーディネーターの配置

京都大学の例



日本では従来から各臓器別・診療科別の縦割りによるがんの教育・研究・診療が行われてきましたが、各大学に調整役の「コーディネーター」を配置したことにより、診療科・臓器横断的な連携が急激に加速しました。

### ⑮地域ネットワークの構築

鳥取大学の例



大学、地域医療機関、行政等が連携して地域全体を包括するネットワークが構築されたことにより、遠隔教育や出張講義、専門医の派遣等が行われ、地域医療人の生涯教育やがん医療の均てん化等に大きく貢献しました。

### ⑯がんプロの全国的な連携



東日本がんプロ  
10拠点公開シンポジウム  
(H23.7.25)

がんプロ西日本市民  
公開シンポジウム  
(H23.7.26)

最終年度の平成23年度には、全国がんプロ協議会が発足し（95大学が参加）、東日本・西日本それぞれで公開シンポジウムが開催されるなど、地域ブロック規模の連携にとどまらず、全国規模の連携にまで発展しました。

## ◇今後の課題の例

### <人材養成について>

- 将来のがん治療開発（橋渡し研究、早期治験、レギュラトリーサイエンスなど）に携わる人材の育成
- チーム医療の推進のための人材育成・教育の拡充
- がん医療統計学、がん医療マネジメント、臨床心理士、がん遺伝情報カウンセリング等の人材育成
- 医学部生への動機付け教育
- 海外大学との交流の強化

### <教育・研究体制について>

- がんにて化した臓器横断的な講座の設置による教育研究体制の強化
- がんプロ取組大学を中心とした地域包括臨床研究ネットワークの構築、エビデンス構築のための臨床試験実施体制の構築

### <キャリアパスの構築について>

- がんプロ修了者の資格取得支援、及び資格取得後のさらなるスキルアップ支援
- がん専門医療人のキャリアパスの構築

## ◇情報公開

全ての取組が本事業のホームページを開設し、コースの概要、募集案内、取組状況、シンポジウムの情報等を公表し、社会への発信に務めています。下記の文部科学省HPから各大学のHPにアクセスできます。  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/kaikaku/gan/1305652.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/gan/1305652.htm)

## がんプロフェッショナル養成プラン(平成19～23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

## &lt;総合評価基準&gt;

評価	総合評価基準	件数
A	教育の活性化が大いに促進され、がん専門医療人の養成が大いに推進された	9件
B	教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された	9件
C	教育の活性化がある程度促進され、がん専門医療人の養成がある程度推進された	0件
D	教育の活性化がほとんど促進されず、がん専門医療人の養成がほとんど推進されなかった	0件
E	教育の活性化が全く促進されず、がん専門医療人の養成が全く推進されなかった	0件

## &lt;総合評価結果&gt;

No	申請担当大学名	共同申請大学	取組名	総合評価
1	札幌医科大学	北海道大学、旭川医科大学、北海道医療大学	北海道の総合力を生かすプロ養成プログラム	A
2	東北大学	山形大学、福島県立医科大学	東北がんプロフェッショナル養成プラン	A
3	秋田大学	岩手医科大学、岩手県立大学、弘前大学	北東北における総合的がん専門医療人の養成	B
4	自治医科大学	国際医療福祉大学	全人的ながん医療の実践者養成	B
5	群馬大学	獨協医科大学、群馬県立県民健康科学大学	北関東域連携がん先進医療人材育成プラン	B
6	千葉大学	筑波大学、埼玉医科大学、茨城県立医療大学	関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点	A
7	東京大学	横浜市立大学、東邦大学、日本大学	横断的ながん医療の人材育成と均てん化推進	A
8	東京医科歯科大学	東京工業大学、日本医科大学、東京薬科大学、東京医科大学	がん治療高度専門家養成プログラム	B
9	北里大学	慶應義塾大学、聖マリアンナ医科大学、東海大学、山梨大学、首都大学東京、聖路加看護大学、信州大学、東京歯科大学	南関東圏における先端的がん専門家の育成	B
10	順天堂大学	明治薬科大学、東京理科大学、立教大学、新潟大学	実践的・横断的がん生涯教育センターの創設	B
11	金沢大学	富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学	北陸がんプロフェッショナル養成プログラム	B
12	名古屋大学	浜松医科大学、名城大学、名古屋市立大学、愛知医科大学、岐阜大学、岐阜薬科大学、藤田保健衛生大学	臓器横断的がん診療を担う人材養成プラン	B
13	京都大学	三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学	高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成	A
14	大阪大学	和歌山県立医科大学、奈良県立医科大学、京都府立医科大学、兵庫県立大学	チーム医療を推進するがん専門医療者の育成	B
15	近畿大学	大阪市立大学、神戸大学、兵庫医科大学、大阪府立大学、神戸市看護大学	6大学連携オンコロジーチーム養成プラン	A
16	鳥取大学	広島大学、島根大学	銀の道で結ぶがん医療人養成コンソーシアム	A
17	岡山大学	愛媛大学、香川大学、川崎医科大学、高知大学、高知県立大学、徳島大学、山口大学	中国・四国広域がんプロ養成プログラム	A
18	九州大学	久留米大学、産業医科大学、福岡大学、福岡県立大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、九州看護福祉大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学	九州がんプロフェッショナル養成プラン	A

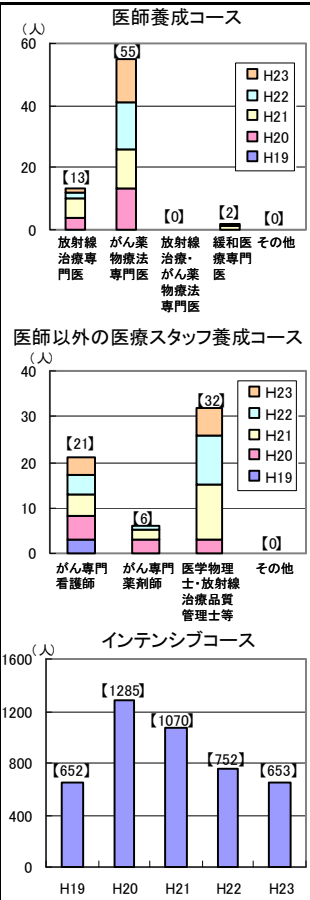


がんプロフェッショナル養成プラン(平成19～23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

整理番号 1

申請担当大学名 (連携大学名)	札幌医科大学 (北海道大学、旭川医科大学、北海道医療大学) 計4大学	
プログラム名	北海道の総合力を生かすプロ養成プログラム	
事業推進責任者	札幌医科大学医学部長・医学研究科長 黒木由夫	
プログラム概要	<p>北海道の医育・医療を担う4大学の教育研究資源と道内各地のがん診療連携拠点病院をはじめ、職能団体・行政が密接に連携し、オール北海道でがん専門医療人の養成に取り組む北海道の総合力を生かした意欲的なプログラムである。</p> <p>具体的には、4大学の教育研究機能を最大限に発揮し、大学院教育での単位互換をはじめ、がん薬物療法・放射線治療・緩和医療・外科療法などのがん専門医師養成と共に、看護師、薬剤師、医学物理士、放射線治療品質管理士などのコメディカル養成についても、体系的なコースを設定している。</p> <p>また、がん診療連携拠点病院と連携した実習や実地修練をはじめ、インテンシブコースでは地域の職能団体や行政と連携し、効率的な遠隔教育や現地への出張講義なども実施することによって、広大な医療圏を有する北海道全域でのがん専門医療人の育成を実現する。</p>	
5年間の取組の事例	19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4大学共同事業として「市民公開講座」を開催(以後毎年)</li> <li>・がんプロフェッショナル養成プランホームページを開設</li> <li>・札幌医科大でがんセンターボードを開始</li> <li>・札幌医科大に腫瘍診療センター、化学療法管理室、放射線治療運営室、緩和ケア管理室を設置</li> <li>・旭川医科大に腫瘍センターを設置</li> </ul>
	20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各大学で、がん専門医師やコメディカルの有資格者で構成する「がんプロ相談支援チーム」を編成</li> <li>・医科系3大学で「がん薬物療法最先端医療講演会」を開催(以後毎年)</li> <li>・札幌医科大に寄附講座・緩和医療学を設置</li> </ul>
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌医科大に医学物理士・放射線治療品質管理士インテンシブプログラムを開設し、遠隔授業システムも有効活用しながら実施</li> <li>・北海道大において本プランを行う教育研究組織を再編(「放射線科」を「放射線診断科」と「放射線治療科」に分離)</li> </ul>
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道大において医学物理士養成のため医学研究科内「医学物理部門」、病院内に「医学物理室」を設置</li> <li>・旭川医科大が、がん看護専門看護師等の学習環境や情報交換、研修環境を整備するため札幌サテライトを開設</li> <li>・札幌医科大で遠隔授業システムを活用した公開合同カンファレンスの実施に着手(23年度本格実施)</li> </ul>
	23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌医科大で放射線診断学講座を開設</li> <li>・札幌医科大で連携4大学大学院生を対象とした、e-learningコンテンツの配信を開始</li> <li>・札幌医科大病院で「放射線科」を「放射線治療科」と「放射線診断科」に分離(従来からある放射線医学講座は放射線治療学に特化)</li> </ul>

5年間のコースの受入れ人数(平成23年12月までの実績)



総合評価結果	A	教育の活性化が大いに促進され、がん専門医療人の養成が大いに推進された。
がんプロフェッショナル養成推進委員会のコメント		<p>○インテンシブコースの受入れ人数が多く、大学が持つ有用な知識・技術等を教授することにより、地域医療人等のレベルアップに大きく貢献している。</p> <p>○がんに関連した講座を新たに多数設置(5講座)し、教育研究体制の強化に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○がんに関する医療チームを新たに多数設置(4チーム)し、診療体制等の強化に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○数的目標(人数、充足率など)達成に向けての努力がうかがわれる。</p> <p>○オール北海道による教育連携により医師及び医療スタッフがまんべんなく養成され、多くの資格取得者を輩出している。ことに、地域の放射線治療推進に欠かせない医学物理士の人材養成が積極的にすすめられている。</p> <p>○4大学共同事業として行った多職種参加型インテンシブコースは興味をひく。</p> <p>○大学内の環境整備が進み、がん専門職養成に関し着実に成果を上げつつある。</p> <p>○論文数及び学会の発表数が多い。</p> <p>○地域連携への意欲がうかがわれる。</p>
○:優れた点等 ●:改善を要する点等		

○中間評価の指摘事項に対して、医師以外のがん専門医療人の養成促進に関して改善は著しく、補助期間終了後の事業継続についても明確となっている。

○おおむね初期計画どおりに設定目標をクリアできたものと評価する。

●インテンシブコースは養成計画に対する受入れ人数の割合が低く、理由について検討が必要である。

●成果をいかに地域、一般に還元するか、がん専門職の養成、人材輩出以外の方法についても工夫すべきである。

●インテンシブコース以外で多職種の養成教育の連携がみえにくい。

●遠隔講義システムやe-learningシステム、交換・交流講義の導入、連携セミナーなど各々の大学を超えた広域教育システムや大学間教育連携に改善の余地がある。

●地域連携に関する成果がわかりにくく、診療連携拠点病院や地域医療施設との密接な連携による教育システムへの課題が残されている。

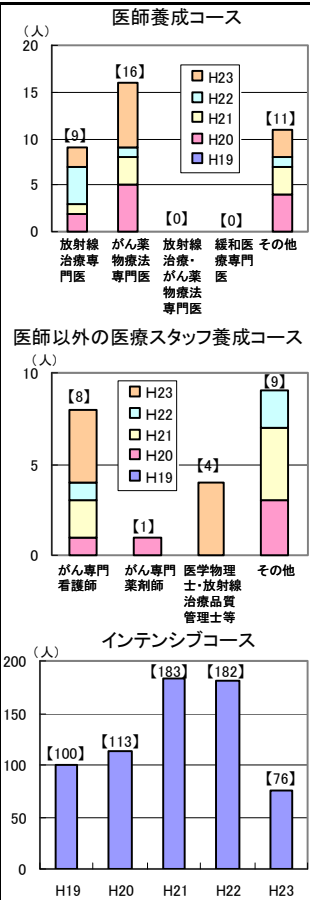
●大学院研究科と大学病院のみではなく、大学間連携に関しても具体策が足りない。大学ごとに活動しているとの印象を受ける。期間、予算面での限界は理解しているが、北海道全道を対象とする計画であれば、施設間、職種間の連携体制の強化策や遠隔教育システムなどの特色ある対応策が必須である。今後の展開に期待したい。

がんプロフェッショナル養成プラン(平成19~23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

整理番号 2

申請担当大学名 (連携大学名)	東北大学 (山形大学、福島県立医科大学) 計3大学	
プログラム名	東北がんプロフェッショナル養成プラン	
事業推進責任者	東北大学加齢医学研究所教授 石岡千加史	
プログラム概要	<p>本プランは、がん対策の一層の充実を図るため、若い人材を啓発し、専門資格取得のために必要な学識・技能を習得させ、学際的かつ総合的な臨床研究推進能力を有するがん専門医療者を養成する大学・地域一体の包括的教育プログラムである。東北大学、山形大学、福島県立医科大学と3県全てのがん診療連携拠点病院が連携する広域プランであり、履修単位の互換や社会人入学制度を有する柔軟な教育システムを実現した。基本理念「がんの克服を目指し、患者を優先する全人的がん医療の実現」の下に、ミッションとして、①先端がん医療を切り開く国際的がん臨床研究のリーダー、包括的能力を有する質の高い地域のがん専門医療者の養成、②がん専門医療者の人事交流とがん医療の標準化の推進による地域がん医療水準の均てん化、③臨床試験と地域がん登録の推進によるがん医療水準の向上、を掲げ、3大学が協力してがん専門医療人養成のための様々な教育事業を実施した。</p>	
5年間の取組の事例	19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北がん評議会(大学、拠点病院、職能団体、東北厚生局、県行政ほか)を開催(以後、隔年開催)</li> <li>山形大学に全診療科参加型のキャンサーボードを設置</li> <li>山形大学に臨床腫瘍学講座を設置</li> <li>福島医大に臨床腫瘍センター、相談支援センター、臨床試験支援のオンコロジー-EBMセンターを開設。又、臓器横断がんサポート設置</li> </ul>
	20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北がんネットワークを設立し、連携拠点病院が連携</li> <li>東北大学において収録済のインターネット講義を開始</li> <li>山形大学と関連5病院間で、ウェブカンファレンス開始</li> <li>山形大学で、多職種による緩和ケアチームが活動開始</li> <li>福島県立医科大学の緩和ケアチームを改変充実</li> <li>福島県立医科大学の化学療法センターを改築・増床</li> </ul>
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北大学において3大学合同学生セミナーを開催(年1回)</li> <li>全国9がんプロと協力し、がん薬物療法コースのシンポジウム開催</li> <li>東北大学において緩和医療を含むローテート実習を開始</li> <li>山形大学で、定期的な緩和ケア研修会(月1回)を開始</li> <li>山形大学が、医用原子力振興財団と共催で放射線のがん医療への応用に関する市民公開講演会を開催</li> </ul>
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北大学において全国のがんプロと協力して、全国腫瘍内科医会を開催し、総会及びシンポジウムを実施した</li> <li>山形大学において、放射線腫瘍学会との共催により、全国規模の放射線腫瘍学セミナーを開催</li> <li>福島県立医科大学で「がん哲学外来」の定期開催が始まる</li> <li>福島県で初めて地域がん登録が始まる</li> </ul>
	23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>3大学合同による市民公開シンポジウムを開催</li> <li>がんプロによる病院・地域間連携、東北がんネットワークの連携機能を生かし、被災地に対してがん医療の情報提供、支援物資のトリアージ、被災地訪問などを実施</li> <li>福島県で震災後の各種事業が開始され、県民健康調査が開始し、がん登録についての強化方針が定まった</li> </ul>

5年間のコースの受入れ人数(平成23年12月までの実績)



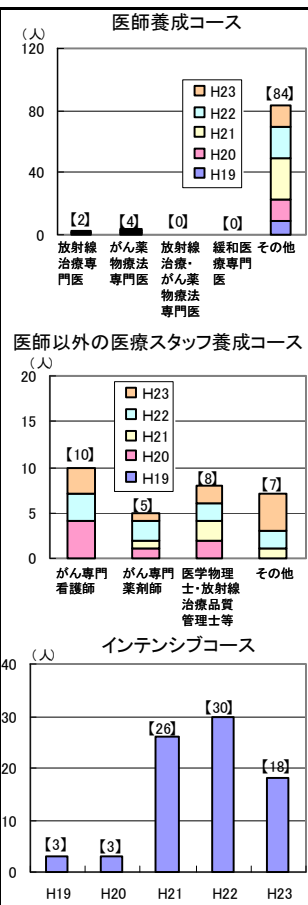
総合評価結果	A	教育の活性化が大いに促進され、がん専門医療人の養成が大いに推進された。
がんプロフェッショナル養成推進委員会のコメント		<p>○がんに特化した講座を新たに多数設置(3講座)し、教育研究体制の強化に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○本事業のホームページを頻繁に更新し、社会や学生等への情報発信に努めている。</p> <p>○市民向けの公開講演会・セミナー等を多数開催し、社会への情報発信・成果の還元を努めている。</p> <p>○がん専門医療人の地域充足に徐々に貢献している。</p> <p>●医師・医療スタッフ養成コースの受入れ人数が少ないため、社会のニーズや交付した補助金額等も踏まえ、更なる養成人数の増加に努めること。</p> <p>●がん専門医療人の養成に関する成果において福島県立医科大学に関する記載がない。</p> <p>●引き続き放射線治療医や緩和ケアを目指す医師養成、啓蒙・啓発を行うこと。</p>

がんプロフェッショナル養成プラン(平成19~23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

整理番号 3

申請担当大学名 (連携大学名)	秋田大学 (弘前大学、岩手医科大学、岩手県立大学) 計4大学	
プログラム名	北東北における総合的がん専門医療人の養成	
事業推進責任者	秋田大学医学系研究科長 本橋 豊	
プログラム概要	<p>本事業では、北東北の3医学系研究科と1看護学研究科が中心となり、地域中核医療機関との連携、情報や教育用ネットワークの活用、大学院でのがん医療教育の推進、授業互換と統一化、カンファレンスや講習会の実施等により、医療過疎地域の顕著な本地域において総合的がん専門医療人を養成してきた。各研究科とも化学療法、放射線療法、緩和ケアを軸に臓器別横断的カリキュラムを構築し、本事業を契機に立ち上げた「北東北がん医療コンソーシアム」や地域関連医療機関との連携を充実させ、高い臨床能力と研究能力を兼ね備えた総合的がん専門医等を養成してきた。本事業を契機に腫瘍内科や臨床腫瘍学講座が2大学で設置や拡充がされ、北東北のがん薬物療法専門医、がん看護専門看護師、がん専門薬剤師、医学物理士も顕著に増加。本事業実務者は附属病院のキャンサーボード、各県のがん診療連携協議会に主要構成員として参画し、地域がん診療の向上に貢献。</p>	
5年間の取組の事例	19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北東北4大学の大学院単位互換等に関する協定調印</li> <li>・腫瘍内科学講座に教授着任(弘前大)</li> <li>・職種・診療科横断的組織である腫瘍センターの設置(岩手医科大学)や拡充(弘前大)</li> <li>・「第1回北東北がん治療カンファレンス・FDワークショップ」開催</li> <li>・「北東北がん看護フォーラム」開催(以後毎年)(岩手県立大)</li> </ul>
	20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「北東北がん医療コンソーシアム」を設立</li> <li>・がん薬物療法専門医を2名招き、がん薬物療法専門医養成のための体制を整備</li> <li>・臨床腫瘍学講座教授着任、腫瘍内科医に特化した後期研修プログラムを策定(秋田大)</li> <li>・北東北がんプロ会員サイトの開設</li> </ul>
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医科系3大学による大学院授業互換実施</li> <li>・日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程[がん看護]認定(岩手県立大)</li> <li>・「第4回北東北がん治療カンファレンス・FDワークショップ」開催</li> <li>・岩手県で、2009 がんを知る月間[市民公開講座]、北東北がん医療コンソーシアム総会を開催</li> </ul>
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第5回北東北がん治療カンファレンス・FDワークショップ」開催</li> <li>・岩手県で、2010 がんを知る月間[市民公開講座]開催</li> <li>・高校生を対象とした公開講座『「がん」を知って大切な人を守ろう』[共催]を秋田市で開催</li> <li>・「医学生・研修医のための放射線腫瘍学秋季セミナー」開催(弘前大)</li> </ul>
	23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係者以外の6名の評価委員による「外部評価」実施</li> <li>・医科系3大学の単位互換開始、学位審査員相互派遣</li> <li>・日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程[がん看護]認定(秋田大)</li> <li>・修了生、在籍中の院生、履修生にアンケートを実施・報告</li> <li>・「医学物理士養成のための講演会」等を開催(弘前大)</li> </ul>

5年間のコースの受入れ人数(平成23年12月までの実績)



総合評価結果	B	教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された。
がんプロフェッショナル養成推進委員会のコメント	<p>○がんに特化した講座を新たに設置(1講座)し、教育研究体制の強化に取り組んでいる。</p> <p>○市民向けの公開講演会・セミナー等を多数開催し、社会への情報発信・成果の還元に努めている。</p> <p>○医師養成コースの受入れ人数等は、当初の計画に近く、また対費用効果なども高い点が評価される。</p> <p>○4大学の連携で比較的多くの大学院生を教育してきたことは各大学が努力してきたことがうかがえる。</p> <p>○本プログラムがきっかけで、連携して院生を教育する教育改革や病院内での多職種によるキャンサーボードが設置されたのは評価できる。</p> <p>○少数の大学でのプログラムにもかかわらず、腫瘍内科、臨床腫瘍科講座を新たにあるいは拡充したことは評価できる。また看護系では、日本看護系大学協議会「専門看護師教育課程(がん看護)」の認定を受けたことも特筆すべきである。</p> <p>○中間評価の指摘事項に対して対応が前向きになされ、補助金事業終了後の対応の検討、ファカルティ・ディベロップメントについてはアンケートや視察の実施、また、臨床研究実施体制、看護</p>	

師の養成についても改善が図られている。

- インテンシブコースの受入れ人数が少ないため、地域の医療人等が、大学が持つ有用な知識・技術等を修得できる機会を更に設けることが望ましい。
- 本プログラムはこれから発展していく可能性を持っているが、インテンシブコース入学者が少なかったためか、今のところ求めている専門医の輩出は限られたものとなっている。
- 資格取得者が少ない理由を考察してほしい。
- 基幹校が頑張った印象が強く、基幹校のリーダーシップが必要であったかもしれない。
- 連携しての教育に関しては、地理的に遠方であり、また社会人入学や雪の問題があるのかもしれないが、院生や教員が一同に会し、演習やセミナーを実施するなど、実践的な連携がなかったように見受けられる。
- 講座の開設等による更なる教育の活性化を期待したい。

がんプロフェッショナル養成プラン(平成19～23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

整理番号 4

申請担当大学名 (連携大学名)	自治医科大学 (国際医療福祉大学) 計2大学	
プログラム名	全人的ながん医療の実践者養成	
事業推進責任者	自治医科大学附属病院 腫瘍センターセンター長 藤井 博文	
プログラム概要	<p>本プランは、質の高いがん医療を遍く全国的規模で提供し、展開しうる医療人の養成である。高度な臨床的実力をそなえ、地域において総合的な保健医療福祉活動に従事できる医師・看護師の養成を行っている自治医科大学と薬剤師や放射線技師などの医療福祉専門職を専門に養成している国際医療福祉大学が密接に連携し、がん医療において重要な「患者を中心としたチーム医療に熟知した高度な臨床能力と研究能力を有した医療人」の育成を行う。本プランは、大学院教育の場を中心に附属病院・連携病院を交えて行い、両大学の位置する北関東圏のみならず、自治医科大学医学部卒業生のネットワークと国際医療福祉大学の遠隔教育システムを活用することにより、全国的な地域がん医療の底上げによる均てん化を可能にしている。加えて、がんに関する正しい知識を国民へ提供し、すべての国民が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会を構築することを目指す。</p>	
5年間の取組の事例	19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治医科大及び国際医療福祉大が円滑に事業を実施するための協定書及び覚書の締結</li> <li>文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」公開講座『進化するがん治療』の開催</li> <li>自治医科大における遠隔授業システムの導入(国際医療福祉大学と接続)</li> </ul>
	20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>2大学が連携した臨床腫瘍学講義の実施(以降毎年)</li> <li>自治医大附属さいたま医療センター遠隔授業システム導入</li> <li>国立がんセンターがん対策企画課との連携—コース設定、臨床実習(以降毎年)、合同研修会実施</li> <li>国際医療福祉大で「三田がんフォーラム」実施(以降毎年1～2回)</li> <li>がん登録専門コース講演会開催(以降毎年)</li> </ul>
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「がんプロフェッショナル養成プラン」合同連絡会の設置</li> <li>自治医大卒業生対象地域でのがん診療の実態調査実施</li> <li>全コース対象多職種合同ケースカンファレンスの開催</li> <li>医療人対象の「緩和薬理フォーラム」・一般市民公開講座「みんなでがんと向かい合う」開催、450名集客</li> <li>がん看護専門看護師(CNS)コースに認可</li> </ul>
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>全コース対象全人的ながん医療の実践者養成のための国際セミナー2日間—2日目両大学で分科会開催</li> <li>全コース教員対象の全人的ながん医療の実践者養成「Faculty Development」の実施</li> <li>国際医療福祉大学三田病院における毎月定例のキャンサーボード症例検討会に遠隔参加開始</li> </ul>
	23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>全コース対象多職種協働実地修練を国際医療福祉大で開催</li> <li>全コース対象「全人的ながん医療の実践者養成」のための多職種協働セミナーの開催</li> <li>自治医大「全人的ながん医療の実践者養成」のための公開国際シンポジウムの開催</li> <li>国際医療福祉大病院に遠隔システムを導入</li> </ul>

5年間のコースの受入れ人数(平成23年12月までの実績)

**医師養成コース**

年度	放射線治療専門医	がん薬物療法専門医	放射線治療・がん薬物療法専門医	緩和医療専門医	その他
H19	0	0	0	0	0
H20	0	0	0	0	0
H21	0	0	0	0	17
H22	0	0	0	0	0
H23	0	0	0	0	0

**医師以外の医療スタッフ養成コース**

年度	がん専門看護師	がん専門薬剤師	理学療法士・放射線治療品質管理士等	その他
H19	0	0	0	0
H20	0	0	0	6
H21	0	0	0	10
H22	0	0	0	11
H23	0	0	0	8

**インテンシブコース**

年度	人数
H19	0
H20	1
H21	15
H22	9
H23	4

総合評価結果	B	教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された。
がんプロフェッショナル養成推進委員会のコメント	<p>○がんに特化した講座を新たに設置(1講座)し、教育研究体制の強化に取り組んでいる。</p> <p>○院内がん登録数が事業実施前と比べて大幅に増加しており、データの蓄積・活用に取り組んでいる。</p> <p>○本事業のホームページを頻繁に更新し、社会や学生等への情報発信に努めている。</p> <p>○数多くの専門資格取得者を輩出するなどの努力がなされた。</p> <p>●医師・医療スタッフ養成コースの受入れ人数が少ないため、社会のニーズや交付した補助金額等も踏まえ、更なる養成人数の増加に努めること。</p> <p>●インテンシブコースの受入れ人数が少ないため、地域の医療人等が、大学が持つ有用な知識・技術等を修得できる機会を更に設けることが望ましい。</p> <p>●養成人数の充足率が十分とは言えない。</p> <p>●地域医師会・患者団体との連携を深めるため、地域医師会・患者団体との連携事業の開催に更に努めること。</p> <p>●職種横断的な教育の取組において、努力はされているが、連携大学が少ない中で課題が残っ</p>	

た。

●連携大学が少ないため、その成果は限定的であり、本事業のそもそもの目標に十分沿っているとは言いにくい面がある。

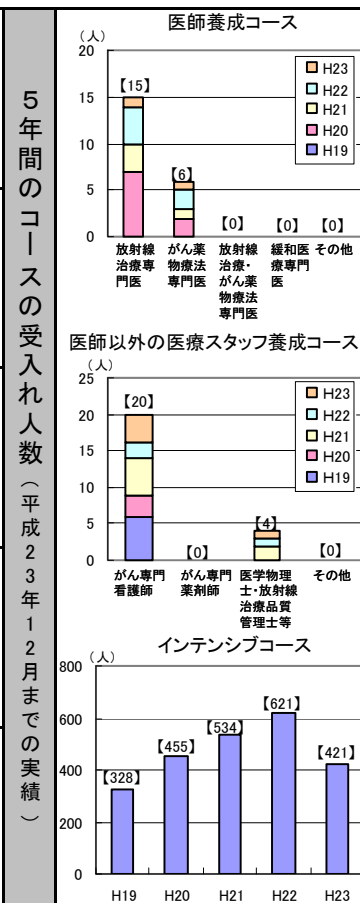
●具体的な記載が少ない。

●中間評価の指摘事項に対しては厳しい指摘に対してかろうじて対応している。

がんプロフェッショナル養成プラン(平成19~23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

整理番号 5

申請担当大学名 (連携大学名)	群馬大学 (獨協医科大学、群馬県立県民健康科学大学) 計3大学	
プログラム名	北関東域連携がん先進医療人材育成プラン	
事業推進責任者	群馬大学大学院医学系研究科長 和泉孝志	
プログラム概要	<p>平成19年度に「がんプロフェッショナル養成プラン」の1つとして選定された「北関東域連携がん先進医療人材育成プラン」は、北関東域におけるがん医療の改善・向上と、その推進のための人材育成を目的とした大学院教育を中心とした取組である。本育成プランは専門医師養成コース2件、コメディカル養成コース2件、インテンシブコース4件で構成され、がんに特化した医療人養成のための大学教育プログラム、及びがん診療従事者に対する実地修練を北関東域で行うことにより、横断的・集学的に診療できる医療人の育成を目指した。</p> <p>さらに、群馬大学では平成22年3月から本邦初の普及型重粒子線がん治療施設の稼働が始まり、重粒子線治療の確立と普及という重責を負っている。重粒子線治療を担う医療人の育成は急務であり本育成プランの重要課題であったが、専門医及びコメディカルの育成や研修コースの実施等によりその責務を果たすことができた。</p>	
5年間の取組の事例	19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>群馬大で粒子線治療施設見学、粒子線治療に関する講演会を開催</li> <li>獨協医大とのTV会議システムを利用した遠隔合同講義開始</li> <li>獨協医大医師の一部キャンサーボードへの参加開始</li> <li>群馬大でがん看護専門看護師演習として、地域住民を対象としたがん相談会を実施</li> </ul>
	20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>群馬大で重粒子線治療の治療計画実習を実施し、重粒子線治療プロトコルを作成</li> <li>群馬大でOn-the-Job Trainingによる放射線治療の研修、TV会議システムによる他施設との症例検討会/カンファレンスの実施</li> <li>群馬大病院緩和医療チームで、がん看護専門看護師コースの実習を開始。また、患者会を対象とした電話相談支援を実施</li> </ul>
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>群馬大で重粒子線治療を開始</li> <li>群馬大でがん薬物療法専門医コース、がん専門薬剤師研修との合同講義開始</li> <li>都道府県がん診療連携拠点病院研修会の腫瘍センターとの合同開催を開始(年3-4回)</li> <li>開設した「がんサロン」でがん専門看護師コース生が実習を開始</li> </ul>
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>獨協医科大学、群馬大学合同セミナーを開催(年3回)</li> <li>群馬大でOn-the-Job Trainingによる重粒子線治療の研修</li> <li>群馬大で治療プロトコル、治療計画がイトライン、運用マニュアルの作成を継続</li> <li>群馬大で粒子線治療の国際会議を主催</li> <li>群馬大で緩和ケアについてのe-learningを構築</li> </ul>
	23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>群馬大で重粒子線治療セミナーの開催、学内の多職種スタッフによる症例検討会</li> <li>多施設からの群馬大での重粒子線治療研修を受入れ開始</li> <li>群馬大で薬薬連携を円滑に進めるために、地域の薬局薬剤師を対象としたセミナーを開始</li> <li>群馬大でがん薬物療法・重粒子線治療のe-learningを構築</li> </ul>



総合評価結果	B	教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された。
がんプロフェッショナル養成推進委員会のコメント	<p>○院内がん登録数が事業実施前と比べて大幅に増加しており、データの蓄積・活用に取り組んでいる。</p> <p>○重粒子線施設を利用した放射線治療関連の医師や技師を多く養成していることは評価できる。</p> <p>○インテンシブコースでの受入れ人数は多い。</p> <p>○群馬大学の放射線腫瘍専門医コースでは重粒子線治療等、最先端のがん放射線治療を先導する専門医が全国の10%強と多数養成され、実践的な教育が行われている点は評価できる。</p> <p>○がん看護専門看護師養成コースが初年度から認可され3名の専門看護師が養成されたのは評価できる。</p> <p>○重粒子線治療が開始され、県民への啓発が進んだ。</p> <p>○病態腫瘍薬理学講座のH24年度設置が承認された。</p> <p>○2医系大学の合同セミナー開催は評価できる。</p> <p>○セミナー、公開講座等についても中間評価の指摘を受けて増加傾向にある。</p> <p>●医師・医療スタッフ養成コースの受入れ人数が少ないため、社会のニーズや交付した補助金額</p>	



等も踏まえ、更なる養成人数の増加に努めること。

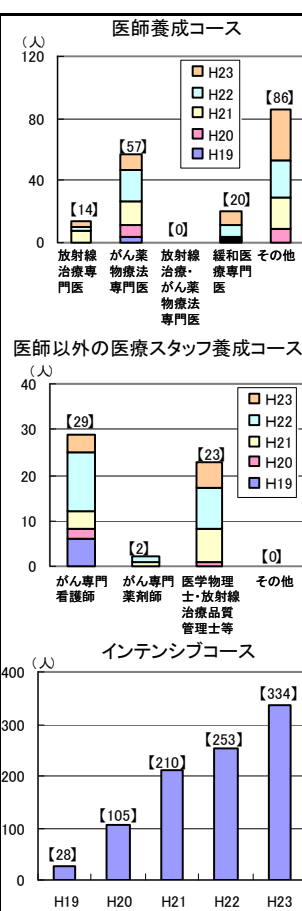
- 獨協医科大学のactivityが少なく思われる。
- 教育コースが少なく、受入れ人数及び費用対効果に課題を残している。
- 新たに設置したがんの特化した講座がない。
- ファカルティ・ディベロップメントが十分とは言えない。
- 職種横断的な教育的アプローチの試みがなされていない。
- 職種横断によるチーム医療推進にかかる教育の試みが弱い。
- 放射線治療関連以外の領域における連携は限定的であり、大学間連携の強化、地域がん医療の質向上への取組に関しては、効果的な対策が十分取られたとは言い難い。
- 3校の連携事業ではあるが、群馬大学1校が頑張っており、1校でできるプログラムであったような内容である。
- がん診療連携拠点病院等との連携システムによる教育・診療の向上に関してより一層の取組が必要である。
- 中間評価に対してはいずれの指摘事項に対しても十分ではない。

がんプロフェッショナル養成プラン(平成19~23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

整理番号 6

申請担当大学名 (連携大学名)	千葉大学 (筑波大学、埼玉医科大学、茨城県立医療大学) 計4大学	
プログラム名	関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点	
事業推進責任者	千葉大学副研究院長 丹沢秀樹	
プログラム概要	<p>本取組により、千葉県、茨城県、埼玉県におけるがん専門家育成のためのコンソーシアムを確立した。この地域の人口は日本全体の1/8強を占める一方、都道府県別人口対医師数のワースト1、2、3位を占める医療過疎圏であり、本拠点における充実した効率的がん診療・医療人育成の確立は、日本におけるがん医療の均てん化に極めて重要である。連携施設が大学・職種の壁を取り払い、人的・教育資源をプログラムジュークボックスとして共有し、施設・職種毎に適した形に再構築、活用し、がん診療ケア・研究の多職種専門家を効率的に育成することに大きな成果をあげた。がん対策推進基本計画を核とした各自治体医療政策とも緊密な連携を行い、これらに貢献し、地域医療に還元した。臓器横断的腫瘍学講座の新設など組織改革に加え、本拠点が確立した遠隔教育システムは平成23年には他拠点との共同事業へと展開し、今後も発展的に継承できる基盤となった。</p>	
5年間の取組の事例	19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ASCO/ESMOグローバルカリキュラムに準拠した教育カリキュラム整備</li> <li>e-ラーニングを導入し、プログラムジュークボックスのプラットフォームを作成</li> <li>千葉大で6研究領域を有する先端腫瘍治療学部門を設置</li> <li>千葉大で、多職種連携臨床腫瘍学講義開始</li> <li>埼玉医大で、臨床腫瘍学講座にがんトランスレーショナルリサーチ専攻分野併設、多職種がんサポーター新設</li> </ul>
	20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>e-ラーニングによる単位認定、大学間の授業交換開始</li> <li>千葉大・患者会代表者共同で市民公開講座開始(以降毎年)</li> <li>千葉大看護学専攻に科目「腫瘍医療ケアコーディネーション」設置</li> <li>筑波大で総合がん診療センター開設</li> <li>筑波大で化学療法レジメWG、外来化学療法室WG新設</li> <li>埼玉医大で地域医療連携懇話会等を利用した地域連携強化</li> </ul>
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>茨城県立医療大学大学院に医学物理士コースを設置</li> <li>新たに「歯科口腔外科がん治療認定医研修コース」増設</li> <li>千葉大CD版「臨床腫瘍学講義」を日本口腔外科学会に提供(9500名の基盤学会に教育プログラムを提供)</li> <li>外部評価シンポジウム等開催</li> <li>中間評価にてA、全国1位の評価を受ける</li> </ul>
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>千葉大で先端腫瘍治療学部門/先端化学療法学研究領域に教授を配置</li> <li>埼玉医大で、がん化学療法専門看護師等の養成を目的とした看護学研究科、がんリハビリテーションの専門家養成等も視野に入れた医学研究科修士課程新設</li> <li>埼玉医大で、先端医療開発センターの設立</li> </ul>
	23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>筑波大が第8回日本e-Learning大賞(文部科学大臣賞)受賞</li> <li>千葉大で24年度大学院改組に伴いカリキュラム大改訂。先端腫瘍治療医学部門にがんプロ成果を継承する「先端医学薬学専攻先端がん治療学コース」を設置</li> <li>がんプロ成果を社会に還元するためのがんプロ市民公開シンポジウム開催</li> </ul>

5年間のコースの受入れ人数(平成23年12月までの実績)



総合評価結果	A	教育の活性化が大いに促進され、がん専門医療人の養成が大いに推進された。
がんプロフェッショナル養成推進委員会のコメント	<p>○医師・医療スタッフ養成コースの受入れ人数が相対的に多く、がん専門医療人の養成に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○がんに特化した講座を新たに多数設置(6講座)し、教育研究体制の強化に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○ほとんどのコースで目標養成人数を上回る成果をあげ、資格取得者も多く、質・量ともに優れた教育成果をあげている。</p> <p>○多職種のがん専門医療人が活用できる「プログラムジュークボックスによるe-learning system」を開発し、全国へ波及する仕組みを作ったことは画期的な成果といえる。単位化を行い、院生、とくに社会人大学院生には取り組みやすいプログラムであったのではないかと。</p> <p>○人口当たりの医師数が全国で最低レベルにある地域において、がん登録件数の増加に寄与している。</p> <p>○がん登録数も多い地域であるので、今後、育成された医療人が地域に成果還元される可能性が高い。</p> <p>○中間評価の指摘事項に対して放射線腫瘍コースへの入学者が増加している。薬剤師に関して</p>	

は、インテンシブコースのなかで養成しようと努力している。

○基幹校である千葉大学に先端腫瘍治療学部門を設置し、教員を配置したことが全体の運営をよくしたのではないと思われる。既存の講座に所属する大学院専攻科が対応するのは困難であり、大学研究科が連携して院生を育成するためには、全大学をコーディネートする部門があることを示唆する。

○全体として良い成果を挙げている。

●比較的には、医師以外の職種の育成が少ない。

●e-learningが中心の授業形態なので、大学院生や教員が一同に会して、顔を合わせての教育や研修、ファカルティ・ディベロップメントは少ない。

●実践現場での大学間、専門職者間の教育連携に課題が残る。

●地域連携事業に関しては課題が残る。

●大学院生はお互い他大学の院生の顔を知らず、その研究内容も知らないまま、卒業していくことになり、本プログラムで言う「連携」は教育システムの連携であったということで評価が難しい。

がんプロフェッショナル養成プラン(平成19~23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

整理番号 7

申請担当大学名 (連携大学名)	東京大学 (横浜市立大学、東邦大学、日本大学) 計4大学																																																																																
プログラム名	横断的ながん医療の人材育成と均てん化推進																																																																																
事業推進責任者	東京大学医学系研究科長 宮園浩平																																																																																
プログラム概要	<p>「横断的ながん医療の人材育成と均てん化推進」は、東京大学を代表とする本プログラム参加大学において、がんの集学的治療、特に薬物療法、放射線療法、緩和医療の指導的人材を育成することを目的とした取組である。本プログラムは、各大学における大学院教育において、がんの臨床医学に特化した授業を新規に導入し、かつ、各大学の横断的ながん診療の統括組織も指導に協力して多職種の医療人を対象としたがん医療の実地修練を行うとともに、国際的に高く評価されている教員の指導によりがん研究の教育を行うものである。このような取組によって、本プログラムは、がん医療の各領域における指導的人材を育成し、がんの集学的治療の専門医療人の教育基盤を形成することによって、がん診療の全国均てん化に資するとともに、がんトランスレーショナル研究を推進し、わが国におけるがん総合医学における先導的役割を果たすものである。</p>																																																																																
5年間の取組の事例	19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市立大、東邦大、日本大板橋病院に「がんサポート」設置</li> <li>横浜市立大にてeラーニングシステムを稼働</li> <li>横浜市立大に臨床腫瘍科学講座を設置</li> <li>横浜市立大で多職種を対象にした乳がん学校第1期を開講</li> <li>日本大附属板橋病院に腫瘍センター、緩和ケア外来、がん相談支援センターを設置</li> </ul>																																																																															
	20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市立大学にて多職種を対象に乳がんの最新治療の教育を目的とした乳がん学校第2期を開講</li> <li>東邦大学にて基礎腫瘍学及び臨床腫瘍学を開講</li> <li>東邦大学に院内及び院外の医療従事者を対象とした「東邦化学療法会」を設置</li> </ul>																																																																															
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本看護系大学協議会より東京大看護師コース(がん看護: 専門看護師教育コース)が専門看護師教育課程に認定</li> <li>横浜市立大学にて市民・がんプロ公開セミナーを開始</li> <li>横浜市立大学附属病院に緩和医療部を設置</li> <li>東邦大学にてeラーニングによる講義を開始</li> <li>日大板橋病院ががん相談支援センターで地域医療支援業務開始</li> </ul>																																																																															
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>東邦大学で社会人専攻生によるがんプロコースを開講</li> <li>日本大学医学部にインテンシブコースを設置</li> </ul>																																																																															
	23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京大学医学部附属病院の緩和ケア診療部が院内措置の組織から大学が定める組織に認定</li> <li>横浜市立大学にて多職種を対象に乳がんの最新治療の教育を目的とした乳がん学校第4期を開講</li> </ul>																																																																															
5年間のコースの受入れ人数(平成23年12月までの実績)																																																																																	
<p><b>医師養成コース</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>放射線治療専門医</th> <th>がん薬物療法専門医</th> <th>放射線治療・がん薬物療法専門医</th> <th>緩和医療専門医</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>16</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>16</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>16</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>16</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>16</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>医師以外の医療スタッフ養成コース</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>がん専門看護師</th> <th>がん専門薬剤師</th> <th>医学物理士・放射線治療品質管理士等</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>インテンシブコース</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>				年度	放射線治療専門医	がん薬物療法専門医	放射線治療・がん薬物療法専門医	緩和医療専門医	その他	H19	16	0	0	0	0	H20	16	0	0	0	0	H21	16	0	0	0	0	H22	16	0	0	0	0	H23	16	0	0	0	0	年度	がん専門看護師	がん専門薬剤師	医学物理士・放射線治療品質管理士等	その他	H19	8	0	0	0	H20	8	0	0	0	H21	8	0	0	0	H22	8	0	0	0	H23	8	0	0	0	年度	人数	H19	10	H20	11	H21	7	H22	10	H23	9
年度	放射線治療専門医	がん薬物療法専門医	放射線治療・がん薬物療法専門医	緩和医療専門医	その他																																																																												
H19	16	0	0	0	0																																																																												
H20	16	0	0	0	0																																																																												
H21	16	0	0	0	0																																																																												
H22	16	0	0	0	0																																																																												
H23	16	0	0	0	0																																																																												
年度	がん専門看護師	がん専門薬剤師	医学物理士・放射線治療品質管理士等	その他																																																																													
H19	8	0	0	0																																																																													
H20	8	0	0	0																																																																													
H21	8	0	0	0																																																																													
H22	8	0	0	0																																																																													
H23	8	0	0	0																																																																													
年度	人数																																																																																
H19	10																																																																																
H20	11																																																																																
H21	7																																																																																
H22	10																																																																																
H23	9																																																																																

総合評価結果	A	教育の活性化が大いに促進され、がん専門医療人の養成が大いに推進された。
がんプロフェッショナル養成推進委員会のコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○がんに特化した講座を新たに設置(2講座)し、教育研究体制の強化に取り組んでいる。</li> <li>○各がん専門医療人の養成に一定の成果がみられる。</li> <li>○充足率、職種横断的な取組など、努力している。</li> <li>○地域の医師会、患者会との連携などに努力している。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●インテンシブコースの受入れ人数が少ないため、地域の医療人等が、大学が持つ有用な知識・技術等を修得できる機会を更に設けることが望ましい。</li> <li>●記載の割には受入れ人数や資格取得者での成果が上がっていない。</li> <li>●がんに特化したセンター等や医療チームの設置といった基盤作りに課題が残る。</li> <li>●中間評価の指摘事項で、関連大学(特に2大学)の活動がやや不十分なままである。</li> </ul>	
○: 優れた点等 ●: 改善を要する点等		

がんプロフェッショナル養成プラン(平成19~23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

整理番号 8

申請担当大学名 (連携大学名)	東京医科歯科大学 (東京工業大学、日本医科大学、東京薬科大学、東京医科大学) 計5大学																																																																															
プログラム名	がん治療高度専門家養成プログラム																																																																															
事業推進責任者	東京医科歯科大学医歯学総合研究科教授 大野喜久郎																																																																															
プログラム概要	<p>従来実施していたがん治療専門医療従事者育成における養成プログラムの改善を図り、優れた人材確保によりがん治療の質の向上と、地域におけるがん医療計画の推進に資する。修士課程において、がん看護専門看護師・医学物理士・放射線治療品質管理士養成のためのコースワークの新設を、博士課程において、緩和医療・放射線治療・化学療法を専門とする臨床医養成におけるコースワークを強化し、更に連携する医療機関群でのがん医療の実践及び修練の質維持にかかわる管理及び連携を強化し、あわせて専門家のインテンシブ教育を実施する。</p> <p>また、がん治療高度専門家養成プログラムとして、具体的な養成・教育プログラムの充実及び実習体制の発展を図るため、大学院の教育組織の強化、連携する大学・医療機関との協議体の組織、附属病院における実習受け入れ組織の改組及び実習環境の整備、プログラム全体の計画策定及び評価を行い進捗管理を図る。</p>																																																																															
5年間の取組の事例	19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京医科歯科大、東京工業大、日本医科大でカリキュラム全般の策定</li> <li>東京医科歯科大にがんプロフェッショナル養成のホームページ作成</li> <li>東京工業大で医学物理士養成コース募集開始</li> <li>日本医科大でがん登録業務開始</li> </ul>																																																																														
	20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京医科歯科大附属病院にがん治療センター設置</li> <li>東京医科歯科大、東京工業大、日本医科大の連携で、放射線治療・化学療法・緩和ケア専門医師の養成コース募集開始</li> <li>東京医科歯科大、東京工業大の連携で、放射線治療品質管理士養成コース募集開始</li> <li>東京医科歯科大でがん看護専門看護師養成コース募集開始</li> </ul>																																																																														
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京医科歯科大附属病院でがんセンター運用開始</li> <li>東京医科歯科大附属病院で院内がん登録の試験運用開始</li> <li>連携大学及び医療機関による報告会開催</li> <li>連携医療機関でのがん専門医師実習開始</li> <li>東京医科歯科大で国際サマープログラム「癌研究の最前線」を開催</li> </ul>																																																																														
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京医科歯科大附属病院でがんセンターの下部組織としての合同カンファレンスを規定</li> <li>東京医科歯科大附属病院で院内がん登録の正式運用開始</li> <li>連携大学及び医療機関による報告会開催</li> <li>東京医科歯科大でベオグラード大Koruga教授を招聘しがん特別講演会を開催</li> </ul>																																																																														
	23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京医科歯科大附属病院に緩和医療チームを設置</li> <li>がんプロフェッショナル養成プラン(医師)修了証の授与開始</li> <li>連携大学及び医療機関による最終報告会開催</li> <li>外部評価作業開始</li> </ul>																																																																														
		<p>5年間のコースの受入れ人数(平成23年12月までの実績)</p> <p><b>医師養成コース (人)</b></p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>放射線治療専門医</th><th>がん薬物療法専門医</th><th>放射線治療・がん薬物療法専門医</th><th>緩和医療専門医</th><th>その他</th></tr> <tr><td>H19</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>H20</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>H21</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>H22</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>H23</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table> <p><b>医師以外の医療スタッフ養成コース (人)</b></p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>がん専門看護師</th><th>がん専門薬剤師</th><th>医学物理士・放射線治療品質管理士等</th><th>その他</th></tr> <tr><td>H19</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>H20</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>H21</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>H22</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>H23</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table> <p><b>インテンシブコース (人)</b></p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>人数</th></tr> <tr><td>H19</td><td>0</td></tr> <tr><td>H20</td><td>0</td></tr> <tr><td>H21</td><td>0</td></tr> <tr><td>H22</td><td>1</td></tr> <tr><td>H23</td><td>1</td></tr> </table>	年度	放射線治療専門医	がん薬物療法専門医	放射線治療・がん薬物療法専門医	緩和医療専門医	その他	H19	0	0	0	0	0	H20	0	0	0	0	0	H21	0	0	0	0	0	H22	0	0	0	0	0	H23	0	0	0	0	0	年度	がん専門看護師	がん専門薬剤師	医学物理士・放射線治療品質管理士等	その他	H19	0	0	0	0	H20	0	0	0	0	H21	0	0	0	0	H22	0	0	0	0	H23	0	0	0	0	年度	人数	H19	0	H20	0	H21	0	H22	1	H23	1
年度	放射線治療専門医	がん薬物療法専門医	放射線治療・がん薬物療法専門医	緩和医療専門医	その他																																																																											
H19	0	0	0	0	0																																																																											
H20	0	0	0	0	0																																																																											
H21	0	0	0	0	0																																																																											
H22	0	0	0	0	0																																																																											
H23	0	0	0	0	0																																																																											
年度	がん専門看護師	がん専門薬剤師	医学物理士・放射線治療品質管理士等	その他																																																																												
H19	0	0	0	0																																																																												
H20	0	0	0	0																																																																												
H21	0	0	0	0																																																																												
H22	0	0	0	0																																																																												
H23	0	0	0	0																																																																												
年度	人数																																																																															
H19	0																																																																															
H20	0																																																																															
H21	0																																																																															
H22	1																																																																															
H23	1																																																																															

総合評価結果	B	教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された。
がんプロフェッショナル養成推進委員会のコメント	<p>○がんに特化した講座を新たに設置(1講座)し、教育研究体制の強化に取り組んでいる。</p> <p>○がんに関する医療チームを新たに多数設置(3チーム)し、診療体制等の強化に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○大学院生の受入れ人数が多い。</p> <p>○院内がん登録やがんセンターが設置された。</p> <p>○がん看護師コースの設置や、工業大学より医学物理士が輩出されたことは評価される。</p> <p>●インテンシブコースの受入れ人数が少ないため、地域の医療人等が、大学が持つ有用な知識・技術等を修得できる機会を更に設けることが望ましい。</p> <p>●本事業のホームページの更新回数が少なく、社会や学生等への情報発信に更に努めること。</p> <p>●地域医師会・患者団体との連携を深めるため、地域医師会・患者団体との連携事業の開催に更に努めること。</p> <p>●連携で大学院生を教育する新しい試みをした形跡がほとんどない。</p> <p>●都市圏で学生、教員の交流は容易であったはずだが、学生の一同に会してのカンファレンスや</p>	

多職種が集まったの大学間での交流がみえず、多職種、チーム医療について不十分である。

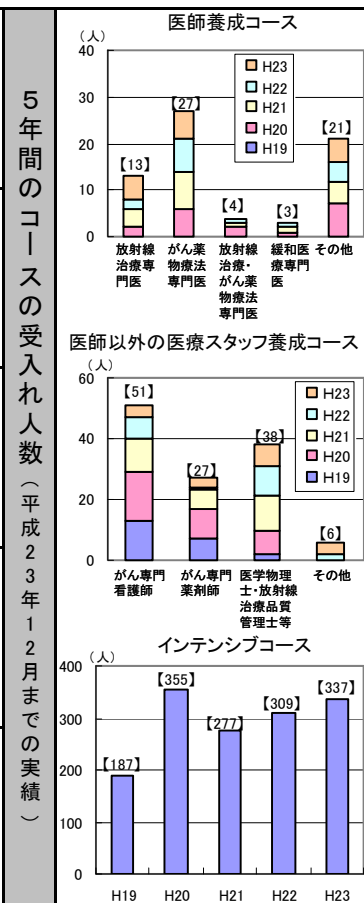
●特殊外来の設置やチームが作られているが、その活動実績が明確でない。

●中間評価の指摘事項への対応が不十分である。

がんプロフェッショナル養成プラン(平成19~23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

整理番号 9

申請担当大学名 (連携大学名)	北里大学(慶應義塾大学、聖マリアンナ医科大学、東海大学、山梨大学、聖路加看護大学、首都大学東京、信州大学、東京歯科大学) 計9大学		
プログラム名	南関東圏における先端的がん専門家の育成		
事業推進責任者	北里大学大学院医療系研究科長 勝岡憲生		
プログラム概要	<p>「南関東圏における先端的がん専門家の育成」は、がん医療の臨床現場を強力に牽引する各スペシャリスト集団を養成する教育研究共同体を創出し、医師、コメディカルの分野の統合的実践型教育を行い、先端的がん治療の均てん化を目指す。本拠点は本邦有数のがん患者治療の実績を誇り、先端治療を開発展開してきた。さらにはがんに特化した各コメディカルの日本随一の育成実績がある。これらの基盤に立脚し、①豊富な症例とカンサーボードによる集学的治療の体得、②化学・放射線療法・緩和・低侵襲外科・リハビリなど先進的がん治療研修、③MDアンダーソン病院スタッフを加えた全職業人合同実践的チーム医療研修、④模擬患者の支援による医療人間科学に基づいたがん患者と家族へのケアスキルの習得、⑤臨床、基礎研究に対応できるがん専門職業人の育成、⑥JCOG等の広域がん治療研究グループへの共同参加、⑦短期習得型インテンシブコースを行う。</p>		
5年間の取組の事例	19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インテンシブコースの開始</li> <li>・課程コースの開設準備</li> <li>・広報(ホームページ、パンフレット)の整備</li> <li>・国内、国外施設の視察</li> <li>・事業を補佐する職員の雇用、設備の導入</li> <li>・遠隔授業支援システムの導入に向けた調整</li> </ul>	
	20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム医療ワークショップの開始(参加大学院生40名)、大学院生プロジェクト研究の実施</li> <li>・大学院生プロジェクト研究の開始(応募数12件、採択者7件)</li> <li>・連携大学全てに遠隔授業支援システムを配備</li> <li>・市民公開講座(消化器がん)を開催(参加者251名 北里大学薬学部コンベンションホール)</li> </ul>	
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶應大、聖路加大、MDアンダーソンがんセンターが共同セミナー開催</li> <li>・北里大と日本対がん協会が子宮頸がん予防キャンペーン開始</li> <li>・山梨大のコース修了者が県内初のがん薬物療法専門医取得</li> <li>・慶應義塾大ががん看護専門看護師教育課程に認定</li> <li>・チーム医療ワークショップ、大学院生プロジェクト研究の実施</li> <li>・市民公開講座(乳がん)を開催</li> </ul>	
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間評価、中間評価に係る外部評価の実施</li> <li>・がん医療に係る倫理教育プログラムのe-ラーニング(CITI-JAPAN e-ラーニングシステム)稼働</li> <li>・東海大の講演会を遠隔授業システムで連携大学に同時配信</li> <li>・海外医療機関との交流</li> <li>・チーム医療ワークショップ、大学院生プロジェクト研究の実施</li> </ul>	
	23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課程コース、インテンシブコースにおける教育研究の実施</li> <li>・総括的シンポジウムの開催</li> <li>・チーム医療ワークショップの実施(参加大学院生25名)、大学院生プロジェクト研究の実施</li> <li>・市民公開講座(前立腺がん 参加者630名、肺がん 参加者78名)を開催</li> </ul>	



総合評価結果	B	教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された。
がんプロフェッショナル養成推進委員会のコメント	<p>○がんに特化した講座を新たに設置(2講座)し、教育研究体制の強化に取り組んでいる。                  ○がんに関する医療チームを新たに多数設置(9組織)し、診療体制等の強化に積極的に取り組んでいる。1大学病院当たりの新たに設けたがんに関する医療チーム数の実績はトップで、診療面でのチーム医療の整備が進んでいることは評価できる。                  ○資格取得者数の費用対効果は良好である。</p> <p>●教員の指導技術向上等のため、ファカルティ・ディベロップメントを開催することが望まれる。                  ●本事業のホームページの更新回数が少なく、社会や学生等への情報発信に更に努めること。                  ●社会への情報発信・成果の還元のため、市民向けの公開講演会・セミナー等の開催に更に努めること。                  ●地域医師会・患者団体との連携を深めるため、地域医師会・患者団体との連携事業の開催に更に努めること。                  ●医師養成コースの人数が少ない。                  ●人材養成に関し、資格取得等は平均値といえるが、大学間連携、職種間連携などを重視した教</p>	

育システムなどの整備は低調であり、教育に関してグループとして活動するメリットが活かされておらず、がんプロの趣旨に十分即した活動となっているとはいいいにくい。

●教育の質の向上のための取組実績は低調であり、計画段階から運営まで根本的な見直しが必要である。特に職種横断的な教育システム、チーム医療教育について検討が必要である。

●「合宿形式のワークショップ」や「大学院生プロジェクト研究」など具体的な成果が明確でない。

●中間評価の指摘事項に対して改善を図っているがいずれも限定した部分的対応で、具体的な成果を見るまでには至っていないように思われる。

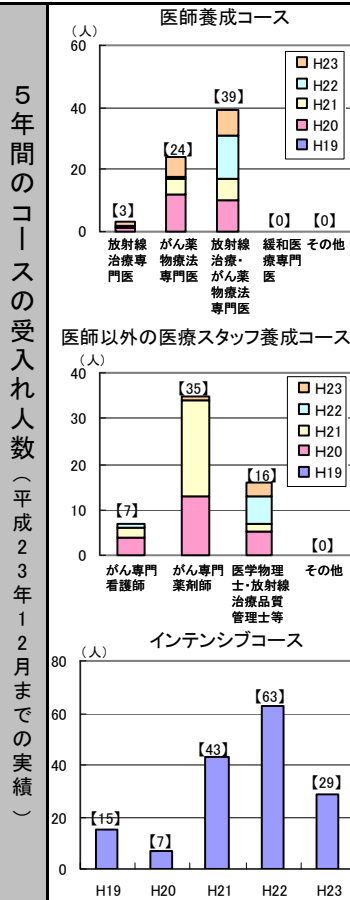
●おしなべて成果は低調で、検討すべき課題が少なくない。計9大学からなる大きなグループであるが、全体として、グループ連携の利点が活かされておらず、参加大学がばらばらに活動している印象を受ける。中間報告でも指摘された施設間の温度差は、改善されたとはいいいがたい。まずは互いの特徴を活かして、「教育」に関する役割分担を定め、グループ、チームとして共有できるような実効的教育カリキュラムやその習得を可能とするシステムを作っていく必要がある。



がんプロフェッショナル養成プラン(平成19~23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

整理番号 10

申請担当大学名 (連携大学名)	順天堂大学 (明治薬科大学、東京理科大学、立教大学、新潟大学) 計5大学	
プログラム名	実践的・横断的がん生涯教育センターの創設	
事業推進責任者	順天堂大学医学研究科長 新井 一	
プログラム概要	<p>「実践的・横断的がん生涯教育センターの創設」において、「がん患者の視点」に立ったがん医療を大学改革の実践の場とする取組である。順天堂大学と新潟大学は、高いがん臨床能力養成と実績を持つ医療機関と連携し、合計66人のがん専門医を養成した。また、順天堂大学と連携大学は、連携教育体制の下、患者の視点に立った医療スタッフを合計58名(がん専門看護師7名、がん専門薬剤師35名、医学物理士16名)養成した。履修生の論文実績は合計57編で学会は159回であった。なお、学位取得者は15名(今年度修了予定含む)である。国内シンポジウムは合計12回、国際シンポジウムを合計8回開催した。本プランでは、教育スタッフ、及びすべての履修生が年に一度集いチーム医療について学ぶ合宿を定期開催した。結果、履修生、スタッフの中にチーム医療に関する認識が浸透し、実習病院においてのキャンサーボードなどの質が向上した。</p>	
5年間の取組の事例	19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん生涯教育センターの創設及び事務局の設置</li> <li>・がん生涯教育センター運営委員会の開催</li> <li>・連携大学院連絡会の開催</li> <li>・市民公開シンポジウム「がんの克服へ」</li> <li>・国際シンポジウム「がん教育について考える」</li> <li>・大学教育改革プログラム合同フォーラムのホスターセッション</li> </ul>
	20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期研修として東京理科大から米国MDアンダーソン病院へ派遣</li> <li>・広報誌「順天堂大学がん生涯教育センターニュースター」作成開始</li> <li>・米国フロリダ大学の医学物理士養成課程研修(2年間)</li> <li>・国内シンポジウム4回</li> <li>・「チーム医療」の合宿研修を実施</li> <li>・国際シンポジウム「画像誘導放射線治療(IGRT)の展望」</li> </ul>
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期研修としてがん専門看護師育成のため、米国UCSF Medical Centerへ教員派遣</li> <li>・国内シンポジウム3回</li> <li>・「チーム医療」の合宿研修を実施</li> <li>・国際シンポジウム3回</li> </ul>
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部評価委員会を実施</li> <li>・国内シンポジウム2回、国際シンポジウム2回</li> <li>・がんプロアカデミア企画の公開講座を実施</li> <li>・「次世代のチーム医療を落ち着いて考える会」の開催</li> <li>・がん治療認定機構より専門医養成校として認定</li> <li>・新潟大学にて宿泊胎内セミナーを開催</li> </ul>
	23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期研修としてがん専門看護師育成のためカナダへ教員派遣</li> <li>・東日本10拠点公開シンポジウムを幹事校として開催</li> <li>・国内シンポジウム2回、国際シンポジウム1回</li> <li>・「チーム医療」の合宿研修を実施</li> <li>・がん専門看護師4名認定(がんプロ養成後実務経験実施し受験し合格)</li> </ul>



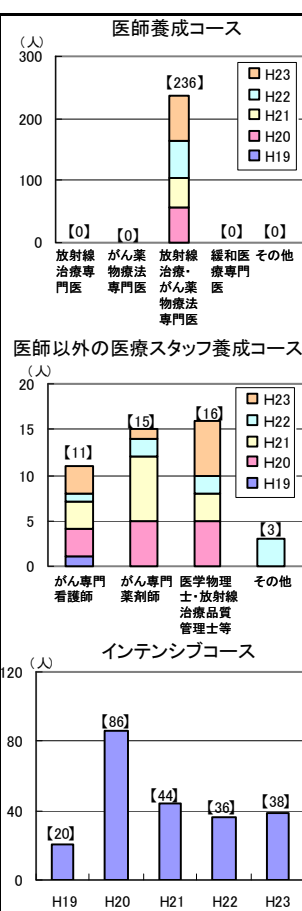
総合評価結果	B	教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された。
がんプロフェッショナル養成推進委員会のコメント	○: 優れた点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医学物理士コースの国内外への取組は評価でき、医学物理士の認知度の向上に貢献している。</li> <li>○チーム医療の合宿研修は興味ある取組である。</li> <li>○海外施設での研修にも意欲的である。</li> </ul>
	●: 改善を要する点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●インテンシブコースの受入れ人数が少ないため、地域の医療人等が、大学が持つ有用な知識・技術等を修得できる機会を更に設けることが望ましい。</li> <li>●地域医師会・患者団体との連携を深めるため、地域医師会・患者団体との連携事業の開催に更に努めること。</li> <li>●多分野にわたるチームであるのに関わらず、診療における波及的効果が明確でない。</li> <li>●中間評価の指摘事項に対して十分に改善されたとは評価しにくい。</li> <li>●新潟大学の関わり合いが少ない。特に新潟大学は参加大学の中で唯一地方にあり、地域医療に対する教育・啓蒙に重要である。</li> <li>●順天堂大学ほぼ単独で計画運営され、実質的な連携は少ない。</li> </ul>

がんプロフェッショナル養成プラン(平成19~23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

整理番号 11

申請担当大学名 (連携大学名)	金沢大学 (富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学) 計5大学	
プログラム名	北陸がんプロフェッショナル養成プログラム	
事業推進責任者	金沢大学大学院医学系研究科長 松井 修	
プログラム概要	<p>本プログラムはICT(e-Learning、TV会議システム)を活用した共通カリキュラムによるがん専門医療人養成プログラムであり、専門医等資格取得者数の拡大に貢献した。大学院演習科目のTV会議システムを利用したがんボード症例検討会(以降CBと略記)を通しIPWマインドが養成された。CBは院生及び大学・地域がん診療連携拠点病院の15拠点の医師及び医療スタッフ参加の多職種による北陸地区版CBである。修了者は臨床現場においてチーム医療実践の成果を出している。また、本CBの場を通して地域医療施設とのがん医療ネットワークが形成され、各医療施設スタッフの医療レベルの向上、地域のがん医療の均てん化の進展に大いに貢献できた。また、市民公開講座、がんプロ.com等による最新の各種がん関連情報提供により、がん患者・家族のがん知識レベルが向上し、最適医療の選択につながり国民の福祉向上に寄与できた。</p>	
5年間の取組の事例	19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携5大学と北陸地区の全がん診療連携拠点病院、行政機関、医師会、報道機関、患者代表等からなる運営協議会を設置</li> <li>・外部評価委員会設置</li> <li>・連携5大学共通のe-Learning教材を整備。e-Learningシステム稼動。ホームページ開設</li> <li>・連携5大学間のテレビ会議システムを導入</li> </ul>
	20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ会議方式による医科系4大学発表・看護系1大学参加のがんプロ・がんボード症例検討会開始</li> <li>・連携の各大学で市民公開シンポジウムや医師・医療スタッフのセミナー・ワークショップ等を開催(毎年)</li> <li>・北陸地区がん診療連携拠点病院にe-Learning視聴装置導入</li> <li>・NPO法人がんプロフェッショナル認定機構設立</li> </ul>
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携5大学の職種間横断的なテレビ会議方式によるがんプロFD研修会を開催(毎年)</li> <li>・石川県内初「がん看護専門看護師」誕生(インテンシブコース「看護Aコース」受講)</li> <li>・内部評価実施(文科省中間評価)</li> <li>・外部評価(中間)実施</li> </ul>
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北陸地区がん診療連携拠点病院等にテレビ会議システムを導入(がんプロがんボード参加)</li> <li>・平成21~22年度がんプロ市民公開講座総集編小冊子発刊</li> <li>・e-Learning教材の見直し、改版、コンテンツ拡充</li> <li>・「医師養成コース」修了者より「がん薬物療法専門医」誕生</li> </ul>
	23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西日本がんプロ市民公開シンポジウム共同開催</li> <li>・地域がん診療連携拠点病院等にテレビ会議システムを拡充配置(がんプロがんボード参加)</li> <li>・がんプロ活動成果報告会開催</li> <li>・内部評価、外部評価実施</li> </ul>

5年間のコースの受入れ人数(平成23年12月までの実績)



総合評価結果	B	教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された。
がんプロフェッショナル養成推進委員会のコメント	<p>○医師・医療スタッフ養成コースの受入れ人数が相対的に多く、がん専門医療人の養成に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○本事業のホームページを頻りに更新し、社会や学生等への情報発信に努めており、がんプロポータルサイトの立ち上げなど、具体的な成果は評価できる。</p> <p>○地域医師会・患者団体との連携事業を多数開催し、地域医師会・患者団体との連携に努めている。</p> <p>○がん診療連携拠点病院においてもe-learningの活用を推進できたことは評価できる。</p> <p>○中間評価の指摘事項に対し、取組継続のために、NPO法人がんプロ認定機構を立ち上げる計画は評価できる。</p> <p>●インテンシブコースの受入れ人数が少ないため、地域の医療人等が、大学が持つ有用な知識・技術等を修得できる機会を更に設けることが望ましい。</p> <p>●医師養成コースの受入れ人数は、多くが金沢大学であり、大学間格差が大きい。</p> <p>●がん看護専門看護師ならびに専門薬剤師の養成に関しては受入れ数が少ない。</p>	

- 大学間連携及び職種横断的な教育的アプローチの試みなどが少ない。
- 実習などのより実践的な教育環境などが不明瞭である。
- 中間評価の指摘事項に対し、がん看護専門看護師養成課程を予定していた3大学では、最終的に教育課程の認定を受けることができていない。

がんプロフェッショナル養成プラン(平成19～23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

整理番号 12

申請担当大学名 (連携大学名)	名古屋大学(浜松医科大学、名城大学、岐阜大学、岐阜薬科大学、藤田保健衛生大学、名古屋市立大学、愛知医科大学) 計8大学																																																																															
プログラム名	臓器横断的がん診療を担う人材養成プラン																																																																															
事業推進責任者	名古屋大学大学院医学系研究科長 祖父江 元																																																																															
プログラム概要	<p>名古屋大学を主幹とする東海地域の8大学が共同で実施した本事業では、各大学による人材育成に対して精力的な支援を行うことにより、がん医療の専門家がその5年間の取組を通して定期的に育成されてきた。とくに世界標準レベルのがん医療を臓器横断的に実践できる臨床腫瘍医やがん専門コメディカルの育成は、この地域における多職種がんチーム医療の発展を十分に促進することになった。また、市民を対象とする公開講座や患者団体などとの連携により、がん医療の専門家に対する社会の理解と期待が醸成されつつある。一方、本事業を通して東海地域の大学及びこの地域を基盤とする医療機関は、それぞれの特性を活かした有機的な連携のインフラを構築した。横断的で集学的ながんの医療体制の整備とともに教育拠点の活性化が促進されたことにより、この地域の大学やがん拠点病院ではがんに特化した講座や診療部門を設置する機運が高まっている。</p>																																																																															
5年間の取組の事例	19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>専用ホームページ及びEラーニングシステムを構築</li> <li>浜松医科大学に「スキルスラボ」を設置</li> <li>参画大学において合同セミナー、市民公開講座を実施</li> <li>情報収集のため各学会や学術集会に参加</li> <li>事業実施状況の把握のために合同会議を開催</li> </ul>																																																																														
	20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>名古屋大学に「臨床研究室」を設置</li> <li>岐阜大学大学院に「臨床腫瘍学分野」を設置</li> <li>参画大学において合同セミナー、市民公開講座を実施</li> <li>事業実施状況の把握のために合同会議を開催</li> <li>外部評価委員会の開催、外部評価報告書の刊行</li> <li>日本臨床腫瘍学会に協力してがんプロ全国アンケート調査実施</li> </ul>																																																																														
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>藤田保健衛生大学に「外科・緩和医療学講座」を設置、大学病院に緩和ケア病棟を開設</li> <li>参画大学において合同セミナー、市民公開講座を実施</li> <li>情報収集のため各学会や学術集会に参加</li> <li>事業実施状況の把握のために合同会議を開催</li> </ul>																																																																														
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>参画大学において合同セミナー、市民公開講座を実施</li> <li>情報収集のため各学会や学術集会に参加</li> <li>事業実施状況の把握のために合同会議を開催</li> </ul>																																																																														
	23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>参画大学において合同セミナー、市民公開講座を実施</li> <li>情報収集のため各学会や学術集会に参加</li> <li>事業実施状況の把握のために合同会議を開催</li> <li>外部評価委員会の開催、外部評価報告書の刊行</li> <li>全国がんプロ協議会「がんプロ事業の成果調査」の実施</li> </ul>																																																																														
		<p>5年間のコースの受入れ人数(平成23年12月までの実績)</p> <p><b>医師養成コース</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>コース</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放射線治療専門医</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>がん薬物療法専門医</td> <td>0</td> <td>29</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>放射線治療がん薬物療法専門医</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>緩和医療専門医</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>医師以外の医療スタッフ養成コース</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>コース</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん専門看護師</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>9</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>がん専門薬剤師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>医学物理士・放射線治療品質管理士等</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>インテンシブコース</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>コース</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インテンシブコース</td> <td>13</td> <td>39</td> <td>44</td> <td>36</td> <td>37</td> </tr> </tbody> </table>	コース	H19	H20	H21	H22	H23	放射線治療専門医	6	0	0	0	0	がん薬物療法専門医	0	29	0	0	0	放射線治療がん薬物療法専門医	0	0	0	0	0	緩和医療専門医	0	0	0	0	0	その他	0	0	0	0	0	コース	H19	H20	H21	H22	H23	がん専門看護師	17	18	9	0	0	がん専門薬剤師	0	0	0	0	0	医学物理士・放射線治療品質管理士等	0	0	0	0	0	その他	0	0	0	0	0	コース	H19	H20	H21	H22	H23	インテンシブコース	13	39	44	36	37
コース	H19	H20	H21	H22	H23																																																																											
放射線治療専門医	6	0	0	0	0																																																																											
がん薬物療法専門医	0	29	0	0	0																																																																											
放射線治療がん薬物療法専門医	0	0	0	0	0																																																																											
緩和医療専門医	0	0	0	0	0																																																																											
その他	0	0	0	0	0																																																																											
コース	H19	H20	H21	H22	H23																																																																											
がん専門看護師	17	18	9	0	0																																																																											
がん専門薬剤師	0	0	0	0	0																																																																											
医学物理士・放射線治療品質管理士等	0	0	0	0	0																																																																											
その他	0	0	0	0	0																																																																											
コース	H19	H20	H21	H22	H23																																																																											
インテンシブコース	13	39	44	36	37																																																																											

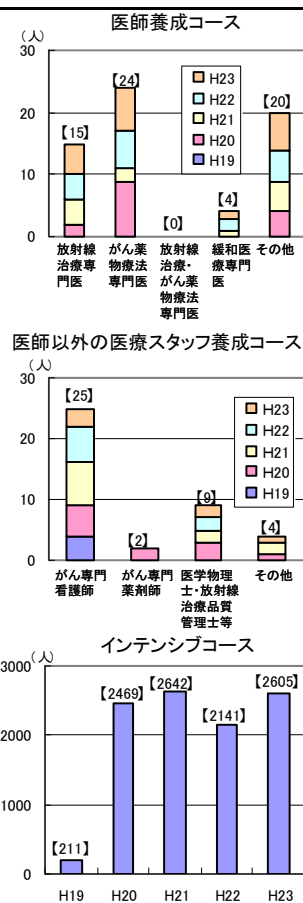
総合評価結果	B	教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された。
がんプロフェッショナル養成推進委員会のコメント	<p>○がんに特化した講座を新たに設置(2講座)し、教育研究体制の強化に取り組んでいる。                  ○がんに関する医療チームを新たに多数設置(8チーム)し、診療体制等の強化に積極的に取り組んでいる。                  ○患者団体とのピアサポーター養成講座での密な連携は評価できる。</p> <p>●医師・医療スタッフ養成コースの受入れ人数が少ないため、社会のニーズや交付した補助金額等も踏まえ、更なる養成人数の増加に努めること。                  ●インテンシブコースの受入れ人数が少ないため、地域の医療人等が、大学が持つ有用な知識・技術等を修得できる機会を更に設けることが望ましい。                  ●専門医認定者が少なく、改善が必要である。                  ●診療面での目に見える成果がないように思われる                  ●市民向けのアピールが不足している。                  ●中間評価の指摘事項に対して対策や体制を作ったと述べているが、具体的成果につながるよう、より一層の取組が期待される。</p>	
○:優れた点等 ●:改善を要する点等		

がんプロフェッショナル養成プラン(平成19~23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

整理番号 13

申請担当大学名 (連携大学名)	京都大学 (三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学) 計4大学	
プログラム名	高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成	
事業推進責任者	京都大学大学院医学研究科長 湊 長博	
プログラム概要	<p>各大学の特徴を生かした職種横断的な高度ながん教育を推進すべくコアカリキュラム等の作成、e-ラーニング導入を実施するとともに、教育基盤を強化すべく横断的な講座、診療科の設置を推進した。専門医コース63名・医療専門職コース40名の入学者、インテンシブコースに延べ10,068名の参加者を得た。それらの人材育成を行う場としてがんセンター等を設置し、キャンサーボードの導入による集学的治療・チーム医療を進めるとともに職種横断的な医療チームを構築した。院内がん登録の実施と合わせ、大学病院のがん診療機能を大きく発展させた。また、各大学の連携による教育プログラムを充実させ、質の高い人材育成に注力した。大学、地域病院との連携を臨床フォーラム、連携教育プログラム等の実施を通じて推進し、近畿2府5県、特に東近畿地区の標準的ながん医療の体制整備、がん医療専門人の広域的な育成に貢献した。</p>	
5年間の取組の事例	19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>TV会議システムを導入し遠隔会議と資料整備を可能とした</li> <li>がんセンターを京都大学、滋賀医科大学に設置し、キャンサーボードを京都大学、三重大学で開始</li> <li>がん登録システムを京都大学で導入し運用を開始</li> <li>京都大学に寄附講座「集学的がん診療学講座」設置</li> <li>第1回4大学医療フォーラムを実施</li> </ul>
	20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>4大学関係者による「臨床腫瘍学コース会議」の定期開催開始</li> <li>京都大で臨床腫瘍学コアカリキュラム、緩和医療学の講義開始</li> <li>京都大が米国MDアンダーソンがんセンターと姉妹機関締結</li> <li>京都大でがん薬物療法を専門とする寄附講座「探索臨床腫瘍学講座」を更新延長</li> <li>滋賀医科大でキャンサーボードを開始</li> </ul>
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>e-ラーニングシステム構築により4大学と関連病院へ配信</li> <li>外部評価委員(5名の有識者)による外部評価を行った</li> <li>大阪医大に放射線腫瘍学専門の教授、化学療法センターにがん薬物療法専門の教授配置、附属病院に放射線治療科開設</li> <li>滋賀医大に薬物療法専門の「総合がん治療学講座」設置</li> <li>大阪医大でキャンサーボードを開始</li> </ul>
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>三重大と滋賀医大にてe-ラーニング聴講での単位認定が可能となった</li> <li>各大学のがんプロ学生へ海外研修等の支援</li> <li>滋賀医大に総合外科学、内科学講座を設置し東近江地区の医療支援開始</li> <li>三重大放射線治療科に客員教授を招聘し教育指導を強化</li> </ul>
	23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都大に抗がん薬の薬理学的研究を行うための寄附講座「臨床腫瘍薬理学講座」と「標的治療腫瘍学講座」を設置</li> <li>第5回4大学医療フォーラムを実施</li> <li>京都大に腫瘍薬物治療学講座、三重大に放射線腫瘍学講座、滋賀医大に総合臨床腫瘍学講座の設置が決定され、京都大、三重大では教授選考を開始</li> </ul>

5年間のコースの受入れ人数(平成23年12月までの実績)

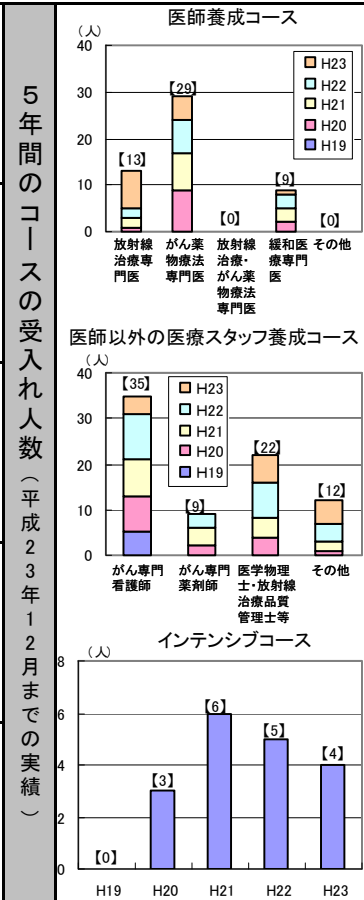


総合評価結果	A	教育の活性化が大いに促進され、がん専門医療人の養成が大いに推進された。
がんプロフェッショナル養成推進委員会のコメント	<p>○インテンシブコースの受入れ人数が多く、大学が持つ有用な知識・技術等を教授することにより、地域医療人等のレベルアップに大きく貢献している。</p> <p>○がんに特化した講座を新たに多数設置(5講座)し、教育研究体制の強化に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○がんに特化した組織を新たに多数設置(3組織)し、診療体制等の強化に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○本事業のホームページを頻繁に更新し、社会や学生等への情報発信に努めている。</p> <p>○資格取得者数やインテンシブコース受入れなどを通じた医療人養成に対する取組・成果は特に評価される。</p> <p>○講座の設置を含め中間評価後の積極的な取組により、かなりの成果がみられている。</p> <p>○今後も各大学が連携を保ちながらの活動を期待したい。</p> <p>●医師養成コース及び医療スタッフ養成コースの受入れ人数は多くない。</p> <p>●大学間の連携(e-ラーニングや人的交流)の更なる活性化が望まれる。</p> <p>●地域と密接した国民への更なる成果還元が望まれる。</p>	

がんプロフェッショナル養成プラン(平成19~23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

整理番号 14

申請担当大学名 (連携大学名)	大阪大学 (兵庫県立大学、京都府立医科大学、奈良県立医科大学、和歌山県立医科大学) 計5大学	
プログラム名	チーム医療を推進するがん専門医療者の育成	
事業推進責任者	大阪大学大学院医学系研究科教授 松浦 成昭	
プログラム概要	<p>本取組で大阪大学、兵庫県立大学、京都府立医科大学、奈良県立医科大学、和歌山県立医科大学の5大学は全体として、医師養成コースに51名の大学院生を受入れ、12名が修了し、すでに3名の資格取得者を得ている。医療スタッフ養成コースは78名の大学院生を受入れ、23名が修了し、33名がそれぞれの資格を取得した。インテンシブコースは医師コースが6名を受入れ・修了し、細胞検査士コースが受入れ12名、資格取得4名であった。本取組の成果として、がん医療に関わる種々の医師、医療スタッフの間のコミュニケーションが向上し、チーム医療の実践が推進された。また、連携5大学はもとより、実習等の関連医療機関とも地域連携が促進された。これらの成果は個々の医療職者の知識・技術のレベルアップによる質の高いがん医療が実践されることに加えて、がん患者のQOL向上、関西地区のがん医療の均てん化につながることを期待される。</p>	
5年間の取組の事例	19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪大学で外部の協力病院と遠隔治療計画支援システムのネットワークを整備</li> <li>各大学で遠隔講義システムを設置</li> </ul>
	20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>各大学にがんプロ教育の中心となる教育研究センターを設置</li> <li>各大学の附属病院にオンコロジーセンターを設置</li> <li>各大学の附属病院でカンサーボードの開始</li> </ul>
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部有識者からなる外部評価委員会による外部評価を実施</li> <li>大阪大学に緩和薬物療法認定薬剤師をめざす緩和ケア専門薬剤師養成コースを設置</li> <li>大阪大学に細胞検査士向けのインテンシブコースを設置</li> <li>日本看護系大学協議会からがん看護専門看護師教育課程の認定</li> </ul>
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪大学に医学物理士(医学博士)養成コースを設置</li> <li>大阪大学に医学物理士(博士後期課程)養成コースを設置</li> <li>各大学の院生が参加する合宿研修を実施</li> </ul>
	23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>他のがんプロ拠点と合同のe-learningクラウドシステムの共同稼働を開始</li> <li>全国のがんプロ拠点大学と全国がんプロ協議会を設立し、がんプロ事業の成果調査を実施</li> <li>西日本のがんプロ拠点合同の市民公開シンポジウムを開催</li> <li>各大学の院生が参加する合同研修を実施</li> </ul>



総合評価結果	B	教育の活性化が促進され、がん専門医療人の養成が推進された。
がんプロフェッショナル養成推進委員会のコメント	<p>○がんに特化した講座を新たに設置(2講座)し、教育研究体制の強化に取り組んでいる。                  ○がんに特化した組織を新たに多数設置(5組織)し、診療体制等の強化に積極的に取り組んでおり、がんセンター等を設けるなど診療基盤の改善は認識できる。                  ○カンサーボードの導入に関しては評価できる。また、職種横断的な講義を導入しようとした努力や、教員ファカルティ・ディベロップメントの開催についても一定の評価はできる。                  ○医師の計画養成数充足に努力がみられた。</p> <p>●医師・医療スタッフ養成コースの受入れ人数が少ないため、社会のニーズや交付した補助金額等も踏まえ、更なる養成人数の増加に努めること。                  ●インテンシブコースの受入れ人数が少ないため、地域の医療人等が、大学が持つ有用な知識・技術等を修得できる機会を更に設けることが望ましい。                  ●がん専門医療人の養成を目的とするプランである以上、受入れ、資格取得の促進等にさらなる努力が必要であったと思われる。                  ●地域医師会・患者団体との連携を深めるため、地域医師会・患者団体との連携事業の開催に</p>	

更に努めること。

●チーム医療の導入、普遍化は実績が不十分である。

●職種横断実習などの取組に課題が残った。

●主な取組の記述をみても、大阪大学と各大学といった記述が多く、参加大学個々での動きが中心と思われ、大学間、地域との連携や役割分担による事業推進といったイメージは浮かばない。

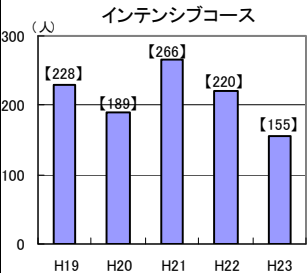
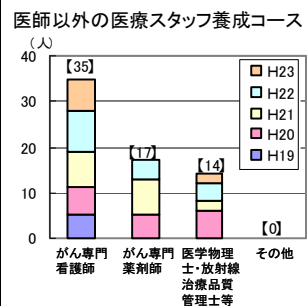
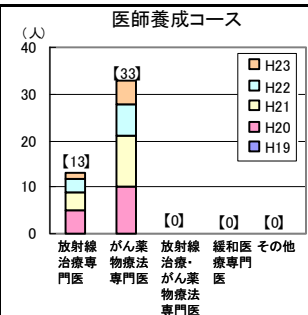
●中間評価の指摘事項への対応が具体的な成果に結び付いていないとの印象を受ける。

がんプロフェッショナル養成プラン(平成19～23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

整理番号 15

申請担当大学名 (連携大学名)	近畿大学 (大阪市立大学、大阪府立大学、神戸大学、兵庫医科大学、神戸市看護大学) 計6大学	
プログラム名	6大学連携オンコロジーチーム養成プラン	
事業推進責任者	近畿大学医学部長 塩崎 均	
プログラム概要	<p>本プランは、近畿の国公立大学の医学、看護学、薬学系大学院研究科が共同してがん専門医療人の養成を行った。参加大学では、腫瘍内科学部門の新設や放射線腫瘍学部門の設置を行った。附属病院では、臓器横断的包括的がん診療体制を確立するために設置されたがんセンター等を中心としてカンサーボードを構築し、院内外を問わず多職種参加を促すことで診療の向上と教育効果を高めることに成功した。また、多職種のがん診療への関わりを深め、コメディカルを含めた多職種医療チームを設置した。がん専門医療人に対する研修会の実施や人的交流、住民を対象とした講演会の実施を通じ、各地域との連携を強固とし地域医療への貢献も果たし得た。教育面では臓器横断的包括的がん診療を可能とする教育プログラムの実施や、多職種連携教育を行った。以上より、本取組では、がん専門医療人養成を効果的に着実に進め、がん医療の向上に貢献できたと考える。</p>	
5年間の取組の事例	19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織運営委員会設置、合同実行委員会設置、多職種が一堂に会する共通特論講義(インテンシブコースのみ)開講</li> <li>大阪地区地域連携推進協議会を設置、大阪エリア委員会を設置(近畿大、大阪市立大、大阪府立大)</li> <li>腫瘍内科学分野を設置(神戸大)</li> <li>緩和ケア講演会を実施(大阪市大)</li> </ul>
	20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト審査委員会設置、産学連携シンポジウムを開催</li> <li>公開症例検討会を開催開始、放射線医学分野に放射線腫瘍学部門を設置(神戸大)</li> <li>FDとしてがん研究センター東病院薬剤部を見学、生涯教育研修会(一般、薬剤師向け)近畿大薬学部がんプロ委員会共催開始(近畿大)</li> </ul>
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>緩和ケア講演会、公開勉強会「Onco知新の会」等開始(神戸大)</li> <li>CNS講演会開催、「がんに関する意識調査」実施(大阪府大)</li> <li>日本看護系大学協議会による専門看護師教育課程認定審査(がん看護)、事例検討会を開始(神戸市看護大)</li> <li>FDとして利根中央病院薬剤部を見学、地域でつなげる緩和医療シンポジウム開催(近畿大)・放射線治療センター設立(兵庫医大)</li> </ul>
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>FD活動でワークショップを開催</li> <li>ワークショップ「死のワーク」を開催開始、腫瘍内科学分野を腫瘍・血液内科学分野に改組、市民公開講座を開催(神戸大学)</li> <li>CNS講演会「医療の場におけるがん看護専門看護師の活動」を開催、「医療従事者向けがんに関する意識調査」を実施(大阪府立大)、症例報告会の開催(近畿大)</li> </ul>
	23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>FD活動で海外研修を実施</li> <li>特別講演会として海外から講師を招聘し特別講演を開催、市民公開講座を開催(神戸大)</li> <li>CNS講演会「がん患者の意思を尊重して療養の場をつなぐ専門看護師の活動」を開催(大阪府立大)</li> <li>FDとして聖路加病院薬剤部を見学(近畿大)</li> </ul>

5年間のコースの受入れ人数(平成23年12月までの実績)



総合評価結果	A	教育の活性化が大いに促進され、がん専門医療人の養成が大いに推進された。
がんプロフェッショナル養成推進委員会のコメント	<p>○がんに特化した講座を新たに多数設置(4講座)し、教育研究体制の強化に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○本事業のホームページを頻繁に更新し、社会や学生等への情報発信に努めている。</p> <p>○市民向けの公開講演会・セミナー等を多数開催し、社会への情報発信・成果の還元を努めている。</p> <p>○6大学間において共通特論、職種横断的教育プログラムを実施し、腫瘍横断的臨床課題演習・ケーススタディ演習などに取り組んでおり、がんチーム医療の連携・協働を推進できる医療人の輩出が行われた。</p> <p>○インテンシブコースの受入れは各大学足並みをそろえてすすめている。</p> <p>○本プログラムの課題である「チーム医療」を構成する医療者を養成するために、多職種間の連携を重視した共通教育、セミナー、模擬患者を利用した研修会などの取組は評価でき、がんプロフェッショナル養成プランの目的に合致した良いプログラムであったと考えられる。</p> <p>○地域連携を図り、実習や地域連携病院との連携強化により、緩和医療チームや化学療法チームなど、がんに特化したチーム医療を現場に波及できた点も評価できる。</p>	



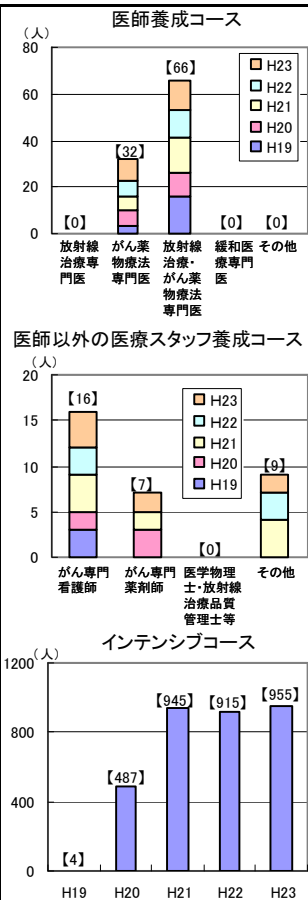
- 包括がんセンター等の実習及び臓器横断的カンファレンスの定着を推進し、多職によるチーム医療が実践に根付くためのシステム化が行われた。
- 中間評価の指摘事項に対し、医系と看護系大学院との定期的な会議をもって連携を図る、新たに放射線腫瘍学部門の講座開設を予定、ファカルティ・ディベロップメントを進めるために海外を含む学会、講演会に参加、本補助金事業の継続のためNPO法人の活用を計画している、など、前向きに対応している。
- 1大学当たりの入学者数、養成数が少なく、入学生を増やす努力が必要である。
- Face-faceの講義や実習が教育プログラムの柱であるが故に、e-learningなどのITを使った教育は行われなかったが、同じ近畿圏でも参加できない授業を補完できる教育システムを開発しておくことは考慮してよいのかもしれない。
- カリキュラムを実践していくためには、かなりの経費がかかること、並びに教員の負担が極めて大きいことがうかがえるので、スリム化が必要かもしれない。

がんプロフェッショナル養成プラン(平成19~23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

整理番号 16

申請担当大学名 (連携大学名)	鳥取大学 (鳥根大学、広島大学) 計3大学	
プログラム名	銀の道で結ぶがん医療人養成コンソーシアム	
事業推進責任者	鳥取大学理事 井藤 久雄	
プログラム概要	平成19年度「がんプロフェッショナル養成プラン」で選定された「銀の道で結ぶがん医療人養成コンソーシアム」は中国地方中山間地を含めがん医療の均てん化を目指す取組である。中国地方の内陸部を共有する鳥取・島根・広島県の3県、3大学の大学院研究科が連携して相互補完を図り、がん医療に携わる人材の育成を効率よく行う。特徴は①医療技術の相互の向上を図る人材交流や単位互換、②e-learningやTVカンファレンスによるリアルタイムな情報交換、③コメディカル講習会による教育機会の提供、④3大学合同ミニシンポジウムによる相互評価にある。本プランは、医師やコメディカルの教育を充実させ、地域全体でがん専門職を養成することであり、全国のがん専門職養成のモデルになることが期待される。	
5年間の取組の事例	19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TV会議システムを利用した合同症例検討会(カンサーホト)開始</li> <li>・鳥取がんセミナー開催(以後毎年)。(財)広島がんセミナーと共催し、県民公開講座、国際シンポジウム開催(以後毎年)</li> <li>・広島大で、診療科・職種横断的ながんプロ運営委員会を設置</li> <li>・島根大で、臨床腫瘍学講座(がん化学療法教育学)及び放射線腫瘍学講座(がん放射線治療教育学)を設置</li> </ul>
	20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TV会議システムを利用した単位互換制度を開始</li> <li>・外部評価実施(以後毎年)、国際TVカンファレンス実施(以後毎年)</li> <li>・島根大で、県内のがん診療連携拠点病院とTV会議システムを活用した講義・講演会実施</li> <li>・広島大が島根大の化学療法教育のため講師を2年間派遣</li> <li>・広島大学大学院にがん治療学講座を設置</li> </ul>
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根大では県内拠点病院と症例カンファレンスを定期的で開催</li> <li>・広島大がん専門医取得支援コース大学院生が、島根大学に留学し単位を取得</li> <li>・鳥取大・島根大は、在籍看護師を広島大学がん看護専門看護師養成コースに派遣(派遣・受入大学による経済支援を実施)</li> <li>・広島大学大学院に放射線腫瘍学講座を設置</li> </ul>
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外研修(トーマス・ジェファーソン大学)を実施</li> <li>・広島大で中国地方初開催となるサイコオンコロジー学会公認のコミュニケーション技術講習会を開催(以後毎年)</li> <li>・広島大で、他大学の講師を複数招聘して放射線治療講演会を定期的開催</li> </ul>
	23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取大で、インテンシブコース公開セミナーを開催</li> <li>・e-learningシステムによる確認テストを含めた授業コンテンツの配信開始(1回の授業を25分程度に分割)</li> <li>・広島大で、臨床研究の基礎から臨床計画の作成までを実践する授業科目を新設</li> </ul>

5年間のコースの受入れ人数(平成23年12月までの実績)

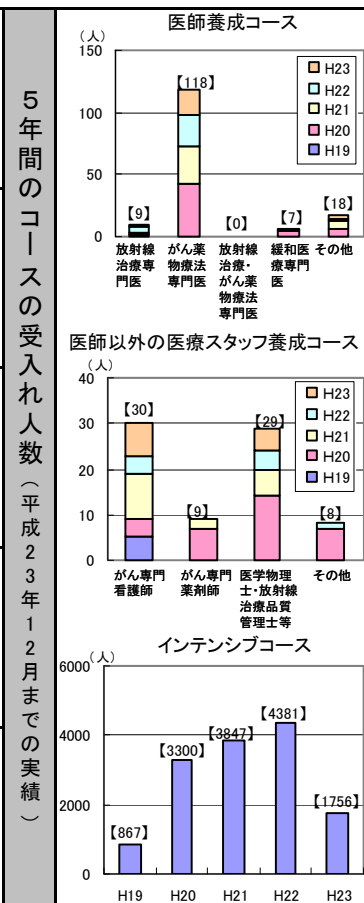


総合評価結果	A	教育の活性化が大いに促進され、がん専門医療人の養成が大いに推進された。
がんプロフェッショナル養成推進委員会のコメント	<p>○医師・医療スタッフ養成コースの受入れ人数が相対的に多く、がん専門医療人の養成に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○インテンシブコースの受入れ人数が多く、大学が持つ有用な知識・技術等を教授することにより、地域医療人等のレベルアップに大きく貢献している。</p> <p>○がんに関連した講座を新たに多数設置(8講座)し、教育研究体制の強化に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○本事業のホームページを頻りに更新し、社会や学生等への情報発信に努めている。</p> <p>○TV会議システムが動き出すことにより情報の均てん化が容易になった。</p> <p>○中間評価の指摘事項に対しては、「臨床研究の方法論と実践」という科目を新設するなど、適切に対応しているところが多い。</p> <p>○全体に良い成果を挙げている。</p>	
○:優れた点等 ●:改善を要する点等		

がんプロフェッショナル養成プラン(平成19~23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

整理番号 17

申請担当大学名(連携大学名)	岡山大学(愛媛大学、香川大学、川崎医科大学、高知大学、高知県立大学、徳島大学、山口大学) 計8大学	
プログラム名	中国・四国広域がんプロ養成プログラム	
事業推進責任者	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科長・谷本光音	
プログラム概要	平成19年度「がんプロフェッショナル養成プラン」で選定された「中国・四国広域がんプロ養成プログラム—チーム医療を担うがん専門医療人の育成—」は、中国・四国8大学の大学院が一つのコンソーシアムをつくり、各大学の特長を生かしながら大学の相互協力と補完により、多職種のがん専門職養成のためのコースワークを整備し、これにがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラなくがん専門職を送り出すプログラムである。がんに関わる多職種専門職が有機的に連携し、チームとしてがん診療と研究を行うべく職種間の共通コアカリキュラムの履修を出発点として教育研修を行う。個人の専門的臨床能力のみならず、チーム医療や臨床研究の能力を身につけた専門職が数多く育成されることにより、地域におけるがん治療の均てん化、標準化が期待されると共に各大学、地域における臨床研究やトランスレーショナルリサーチなどの活性化が期待される。	
5年間の取組の事例	19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報委員会を開催し、週刊、月刊レポートを配布開始</li> <li>・eラーニングシステムを全大学に導入</li> <li>・各大学に腫瘍センター、緩和チーム、がんサポートを設立</li> <li>・海外FDを行い多職種からなるチームを派遣(以降毎年)</li> <li>・徳島大学にコンソーシアム共有のスキルラボを設置</li> <li>・がん看護CNSセミナーを開催、以降毎年開催</li> </ul>
	20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員会、カリキュラム企画運営委員会等を開催(以降毎年)</li> <li>・各大学院専門職養成コースに学生が入学し、共通コア、共通科目、専門科目からなるコースワークによる講義を開始(以降毎年)</li> <li>・eラーニングコンテンツの収録・配信を開始、HPを立ち上げ、学生認証を開始</li> <li>・各種講演会、市民公開講座を開催(以降毎年)</li> </ul>
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床腫瘍学講座(川崎医大)、緩和医療学講座を開設(岡山大)</li> <li>・がん患者サロンを県内ではじめて開設(愛媛大、岡山大)以後川崎医科大に設立</li> <li>・臨床試験委員会を開催、プロトコル校閲指導を開始(山口大)</li> <li>・外部評価委員会を行い、プログラムの効果を検証し改善</li> <li>・チーム医療合同演習を開催(以降毎年)</li> </ul>
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Oncology nurse 養成研修コースを開設(川崎医科大)</li> <li>・外科手術ライブラリーの配信開始(山口大)</li> <li>・第1期がんプロ卒業生輩出(岡山大他・専門医師養成コース)</li> <li>・がん治療認定医(歯科口腔外科)養成インテンシブコースを新設(岡山大)</li> </ul>
	23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射線治療部の設置(山口大、香川大)</li> <li>・全国eラーニングクラウド参加</li> <li>・インターネットポータルサイトの試用開始(愛媛大)</li> <li>・外部評価委員会を開催</li> </ul>



総合評価結果	A	教育の活性化が大いに促進され、がん専門医療人の養成が大いに推進された。
がんプロフェッショナル養成推進委員会のコメント	<p>○インテンシブコースの受入れ人数が多く、大学が持つ有用な知識・技術等を教授することにより、地域医療人等のレベルアップに大きく貢献している。</p> <p>○がんに関連した講座を新たに多数設置(8講座)し、教育研究体制の強化に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○がんに関連した組織を新たに多数設置(5組織)し、診療体制等の強化に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○がんに関する医療チームを新たに多数設置(7チーム)し、診療体制等の強化に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○本事業のホームページを頻りに更新し、社会や学生等への情報発信に努めている。</p> <p>○医師・医療スタッフ養成コースの資格取得者数及び費用対効果は評価される。</p> <p>○中間評価の指摘事項に対して前向きな取組がなされている。</p> <p>○総合的に見て、十分な成果が出ており、プロジェクト自体は成功しているものと判断される。</p> <p>●大学間連携・地域連携を図りながらの更なる発展が望まれる。</p> <p>●更に地域に密着した成果還元が期待される。</p>	

がんプロフェッショナル養成プラン(平成19~23年度事業)の取組概要及び最終評価結果

整理番号 18

申請担当大学名 (連携大学名)	九州大学(久留米大学、産業医科大学、福岡大学、福岡県立大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、九州看護福祉大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学) 計13大学																																																																																																								
プログラム名	九州がんプロフェッショナル養成プラン																																																																																																								
事業推進責任者	九州大学大学院医学研究院長 片野 光男																																																																																																								
プログラム概要	<p>「九州がんプロフェッショナル養成プラン」は、九州大学を中心に九州の医療系13大学、地域のがん拠点病院、緩和ケア専門病院によるネットワーク(九州がんプロフェッショナル養成協議会)を構築し、行政や医師会と連携して九州全域にがんの医療、情報収集、教育、研究を展開した。各大学はコーディネーターを中心に教育プログラムを実施し、各専門職養成コースにおいて共通の基準で修了認定を行った。</p> <p>5年間の取組期間を通して、教員の交流やeラーニングによる授業の共有によって、より効果的かつ効率的な教育を実現させ、九州がんプロ内だけでなく、全国のがんプロ拠点との連携についても事業開始当初から検討を行い、その結果、がんプロ全国e-learningクラウドの開発に繋がった。九州がんプロ連携大学の各講座のネットワークを通じて、地域のがん医療の担い手として九州各地にがん専門医療人を配置した。</p>																																																																																																								
5年間の取組の事例	19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学間における単位互換に関する覚書を締結し、単位互換を開始</li> <li>・養成協議会、各作業部会を実施し、インテンシブコースを充実</li> <li>・各大学の電算システムの環境についての調査、各キャンパス内におけるeラーニングの環境整備状況把握を実施</li> <li>・大分大が臨床腫瘍医学講座(寄附講座)を設置</li> </ul>																																																																																																							
	20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんプロコース生と教員が海外関連学会等で発表(以後毎年)</li> <li>・特別講師を招き、講演会・セミナーを開催(以後毎年)</li> <li>・UMINテレビ会議システムを活用することで、時間・旅費をかけずに多職種連携の講演会・セミナーを開催する仕組みを構築</li> <li>・久留米大に「久留米大学認定看護師教育センター」を設置し、「がん化学療法看護分野」と「緩和ケア分野」の2分野を開講</li> </ul>																																																																																																							
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点との意見交換を行い、今後も連携して本プランを推進していくことを決定</li> <li>・九州大、大分大のがんプロコースによる合同カンファレンスを開始</li> <li>・外部評価シンポジウム(中間評価)を開催</li> <li>・がん看護専門看護師資格取得者の卒後教育を検討する委員会を設置</li> </ul>																																																																																																							
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州がんプロeラーニングシステムが完成、使用開始</li> <li>・関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点と合同シンポ開催</li> <li>・久留米大認定看護師教育センターに「がん放射線療法看護分野」を増設し開講</li> <li>・「膵癌に関する国際シンポジウム」を開催</li> <li>・九州大が重粒子線がん治療学講座(寄附講座)を設置</li> </ul>																																																																																																							
	23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州がんプロ全大学が、がんプロ全国e-learningクラウドシステムに参画</li> <li>・外部評価シンポジウム(最終評価)を開催</li> <li>・九大が米国の専門家を招へいし、がん看護ファイナルセミナーを開催</li> </ul>																																																																																																							
		5年間のコースの受入れ人数(平成23年12月までの実績)	<p>医師養成コース</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H23</th> <th>H22</th> <th>H21</th> <th>H20</th> <th>H19</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放射線治療専門医</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>がん薬物療法専門医</td> <td>125</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>放射線治療がん薬物療法専門医</td> <td>58</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>緩和医療専門医</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>医師以外の医療スタッフ養成コース</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H23</th> <th>H22</th> <th>H21</th> <th>H20</th> <th>H19</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん専門看護師</td> <td>45</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>がん専門薬剤師</td> <td>16</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>医学物理士・放射線治療品質管理士等</td> <td>41</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>インテンシブコース</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H23</th> <th>H22</th> <th>H21</th> <th>H20</th> <th>H19</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>314</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>271</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>245</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>305</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H23	H22	H21	H20	H19	放射線治療専門医	0	0	0	0	7	がん薬物療法専門医	125	0	0	0	0	放射線治療がん薬物療法専門医	58	0	0	0	0	緩和医療専門医	0	0	0	0	0	その他	0	0	0	0	1	年度	H23	H22	H21	H20	H19	がん専門看護師	45	0	0	0	0	がん専門薬剤師	16	0	0	0	0	医学物理士・放射線治療品質管理士等	41	0	0	0	0	その他	0	0	0	0	8	年度	H23	H22	H21	H20	H19	H19	0	0	0	0	26	H20	0	0	0	314	0	H21	0	0	271	0	0	H22	0	0	0	245	0	H23	305	0	0	0	0
年度	H23	H22	H21	H20	H19																																																																																																				
放射線治療専門医	0	0	0	0	7																																																																																																				
がん薬物療法専門医	125	0	0	0	0																																																																																																				
放射線治療がん薬物療法専門医	58	0	0	0	0																																																																																																				
緩和医療専門医	0	0	0	0	0																																																																																																				
その他	0	0	0	0	1																																																																																																				
年度	H23	H22	H21	H20	H19																																																																																																				
がん専門看護師	45	0	0	0	0																																																																																																				
がん専門薬剤師	16	0	0	0	0																																																																																																				
医学物理士・放射線治療品質管理士等	41	0	0	0	0																																																																																																				
その他	0	0	0	0	8																																																																																																				
年度	H23	H22	H21	H20	H19																																																																																																				
H19	0	0	0	0	26																																																																																																				
H20	0	0	0	314	0																																																																																																				
H21	0	0	271	0	0																																																																																																				
H22	0	0	0	245	0																																																																																																				
H23	305	0	0	0	0																																																																																																				

総合評価結果	A	教育の活性化が大いに促進され、がん専門医療人の養成が大いに推進された。
がんプロフェッショナル養成推進委員会のコメント	○: 優れた点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医師・医療スタッフ養成コースの受入れ人数が相対的に多く、がん専門医療人の養成に積極的に取り組んでいる。</li> <li>○がんに関連した講座を新たに多数設置(12講座)し、教育研究体制の強化に積極的に取り組んでいる。</li> <li>○資格取得者数の対費用効果が大きく、論文・学会発表等も盛んに行われている。</li> <li>○中間評価の指摘事項に対して前向きな対応がなされているものと判断される。</li> <li>○全体として概観した場合、プロジェクト自体はほぼ成功を修めたと判断される。地域的な特色も含め、eラーニングなどを充実させ、今後につなげ、九州地区全体のレベルアップを図る点は特に評価され、プロジェクト終了後もこの努力が継続されることが期待される。</li> </ul>
	●: 改善を要する点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ファカルティ・ディベロップメントや大学間の人的交流をさらに活発化することが望まれる。</li> <li>●得られた成果の国民への更なる還元に向けた取組が望まれる。</li> <li>●連携大学全体としての均等化が不十分でばらつきが見られる。</li> <li>●看護以外の実習などの実践的な均等化が不明瞭である。</li> </ul>